

兵庫県民間病院協会会報

2026

7

令和8年 通巻665号

目次

巻頭言	(一社)兵庫県民間病院協会 会長 橋 本 創	1
随 筆		
雑感	(一社)兵庫県民間病院協会 理事 馬 殿 徹 也	2
幸せの花アガペ (リュウゼツラン)		
	(一社)兵庫県民間病院協会 理事 栗 原 英 治	3
笑顔の連鎖	(医)旭会 園田病院 事務長 畑 林 宏 茂	4
梅雨の窓辺	(社医)渡邊高記念会 西宮渡辺病院 看護部長 毛 利 京 子	5
令和8年度 第56回 定時総会議事録		6
令和8年度 総会後の特別講演会・懇親会の開催について		8
令和8年度 誌上シンポジウム「経営改善に向けた対応」		9
病院かわら版	(医社)正名会 池田病院	28
エリア情報 (神戸・東阪神・西阪神・西播)		30
協会だより		35
お知らせ		36
(一社)兵庫県全日本病院協会だより		38
兵庫県病院協同組合だより		43
兵庫県病院企業年金基金だより		44

今こそ民間病院の底力を示そう

(一社)兵庫県民間病院協会会長
(医)旭会理事長・園田病院院長

橋本 創



昨年の6月に兵庫県民会病院協会の会長職に就任してから早くも1年が経過しました。毎月の理事会や行政、関連団体との会議など、なかなか大変な1年でした。先般、6月18日に令和8年度の定時総会を無事に終えることができ一息ついているところです。

さて、少子高齢化の進展に伴い、わが国の医療を取りまく環境は大きな転換期を迎えています。高齢患者の増加により、高齢者救急の問題は急性期病院だけの課題ではなく包括期、慢性期そして在宅へと続く切れ目のない医療提供体制の構築がこれまで以上に求められています。

こうした中で実施された今回の診療報酬改定は3.09%という近年にないプラス改訂でしたが、賃上げ分や物価高騰対応を除くと決して十分な改訂でなく、病院経営はかつてない厳しさに直面しています。6月の診療報酬について各病院は精査いただき今後の経営方針を検討していただきたいと思います。

さらに深刻なのは医療人材の確保です。医師のみならず、看護師をはじめとする多職種の人材不足は地域医療全体に影響を及ぼしており、人材の育成と定着は喫緊の課題となっています。紹介業者に支払う手数料に関しては、今年実施したアンケート調査でも病院経営の大きな負担となっていることが改めて確認されました。働きやすい職場づくりやタスクシフト・タスクシェアの推進など、従来の発想にはとらわれない取り組みも必要になってくると考えます。

また、今年度は新たな地域医療構想の策定が進められようとしています。兵庫県は神戸圏域や阪神圏域など今後も人口が維持される圏域と、丹波圏域、北播磨圏域など人口減少圏域が混在しており、それぞれの圏域の実情を踏まえた医療提供体制の構築が求められています。242ある兵庫県民間病院協会の会員病院のうち200床以下の中小病院が190病院と8割近くを占めています。地域の民間病院は、公的病院とともに地域住民の生命と健康を支える重要な役割を担っていることはいまさら言うまでもありません。だからこそ、行政や関係団体と協議を重ね、現場の声を地域医療構想に反映していくことが重要だと考えます。

課題は山積しています、しかし、このような時代だからこそ、病院相互の連携と、情報共有、そして協会としての発信力がこれまで以上に重要になります。兵庫県民間病院協会は、会員病院の声を集約し、地域医療を支える民間病院の立場から必要な提言を行い、安心して医療を提供できる環境づくりに努めてまいります。

雑感

(一社)兵庫県民間病院協会理事
(医)回生会理事長・宝塚病院院長

馬殿 徹也



今年は梅雨入りをしてからあまりよい天気がなく、台風が一気に2つほぼ一緒に来たりしています。

温暖化の影響かとふと思う今日この頃です。

さて、診療報酬改定に伴う請求が6月からはじまり、非常にバタバタとしている病院の先生方やスタッフの方が多いと考えています。

私の運営する病院も、ご多分に漏れず基本入院料を変更したり、病棟の機能を変更するところがあったり、救急の算定が変わったりして、医事課、診療情報管理室などのスタッフも含めて職員総出でてんやわんやの対応をしたところ です。

もうしばらくすればこの改定が各病院それぞれにとってどのような恩恵を受けることができるようになったのか、はたまた期待外れだったのかということが分かるのではないかと思います。

現場はしっかりと頭と体を動かし患者さんの治療や療養に全力を傾け、事務方の職員はいかに現場で流した汗水を診療報酬という形に変えるか、と日夜努力しているわけですが、なかなか苦しい毎日が続きます。DPC病院の場合はEFファイルによって各病院がデータ上丸裸にされているということが大きいのではないかと考えています。

その上で自院の強みや魅力を生かした病院運営をしていきたい。ただ目の前に診療報酬とシステムという大きな「壁」が立ちはだかっているというのがいつもの構図ではないでしょうか？

適度に目の前の「壁」にあらがいつつ、しなやかに自分たちの病院らしくかわしていきたい

ものです。

とはいうものの、目の前そしてこれからの将来を考えつつ病院運営を続けるだけというのも辛い毎日です。また、色々な決断に対して視野狭窄に陥る原因にもなりかねないと考えています。

その対策として、適宜自分の趣味で一旦心身をリセットして日々を過ごすようにしています。

体力が落ちてきているのか趣味でもインドア系とアウトドア系を巧みに組み合わせる必要があることに最近気づきました。

体力的に非常にきついときはやはり物理的に体を休めることが必要です。それに対しては読書をしたり、ゆっくりとミストサウナをつけてお風呂に入ったり、ただただボーっとしたりしています。

少し元気があるときは体を動かすことによってスッキリ感が出てくることも最近の新たな発見でした。そんなときは仕事の後にちょっとしたストレッチマシーンを置いたジムに行ったり、私は季節もののスポーツ（スキー）が趣味のひとつです。うまく自分の予定と体力を合わせながら日帰りベースでスキー行をしたりしています。

世の中でもライフワークバランス（人によってはワークワークバランスやライフライフバランスになっている方もいますが）について喧伝されていますが、自分にもそれなりのライフワークバランスを取ることが必要と思いました。

諸先生方はどのようにして心身共に健やかに過ごせるようにしていらっしゃいますでしょうか？

これから暑くなりますが皆様ご自愛ください。

幸せの花アガペ（リュウゼツラン）

（一社）兵庫県民間病院協会理事
（社医）順心会理事長（順心病院）

栗原 英治



開院7周年を迎える順心神戸病院の2階中庭に、奇跡の花と言われるアガペがまもなく開花します。

ぐんぐん花茎を伸ばし8メートル程になり、花芽もたくさんつけております。心配しました2度の台風も無事乗り切りました。

このアガペは、メキシコ原産で、数十年に一度だけ咲きあとは、枯れてしまう為、毎年どこかの土地のニュースでご覧になったことはあると思いますが、いざ目の前に突如伸びてきたアガペに、職員や患者様みな大興奮…

貴重な機会に恵まれ、開運幸福と毎日見守っております。

アガペは、一生に一度だけの開花後、枯れる前に、根元に、子孫を残し、種子をつけて、次世代に繋ぐ見事な一生を送るわけですが、これもまた見習うべき貴重な教えとなります。

今年6月より、2026年度の診療報酬の改定で、1996年以来、30年ぶりに3.09%引き上げられました。

しかし、国内外の様々な原因から物価高騰による費用の増大や、現場での診療報酬改定への対応等、多くの課題がありますが、少しでも、

医療環境が良い方向に向かうことができたなら、幸せの花アガペに、祈っております。

これが紙面に載る頃には、どこかのメディアに、我がアガペも登場するかもしれません。



笑顔の連鎖

(医) 旭会 園田病院事務長

畑林 宏茂



私たちのグループ病院では、「笑顔の連鎖」を大切なテーマとして掲げております。医療の現場という、どうしても緊張感や不安が先に立つことが多いのですが、その中にこそ、少しの笑顔や柔らかなやりとりがあることで、場の空気は思いのほか変わるものだと日々感じております。

事務長という立場で院内を見ておりますと、笑顔というのは特別なスキルというより、「ちょっとした間合い」と「ほんの少しの余裕」から生まれるもののように思います。たとえば受付での「おはようございます」が、昨日より少しだけ明るい声だったり、電話対応の最後に自然と「お気をつけくださいませ」がついていたり。その小さな違いが、実は意外と大きく伝わっているようです。

思い返しますと、前回この協会報に寄稿したときも、ちょうどワールドカップの時期でした。夜更かし気味で試合を見て、翌朝の会議で少しだけ目がしょぼしょぼしていたのを思い出します。それでも、ゴールが決まった瞬間に選手も観客も一気に笑顔になるあの光景は、やはり印象に残っております。

そして今回もまた、同じようにワールドカップの季節を迎えております。試合の中で見られる選手同士の声かけや、得点後の笑顔を見るたびに、それがチーム全体の雰囲気をも明るくし、次のプレーにつながっていく様子に、あらためて気づかされます。

病院の中でも同じように、ひとつの笑顔ややさしい言葉が、思った以上に遠くまで伝わる場合があります。受付での一言が、診察室まで良い雰囲気を運んでいたり、逆に診察室の安心感が会計窓口まで続いていたりと、気づけば“院内リレー”のようになっていることもあります。

もちろん、毎日が穏やかに流れるわけではありません。ときには笑顔どころではない忙しさの日もあります。ただ、そういう日ほど、ふとした一言や小さな笑顔が効いてくるのだとも感じております。

これからも、院内のどこかで生まれた小さな笑顔が、少しずつ形を変えながら連鎖していくような職場でありたいと思います。そしてその連鎖が、患者さんの安心や信頼につながっていくことを願っております。

梅雨の窓辺

(社医) 渡邊高記念会 西宮渡辺病院看護部長

毛利 京子

私は西宮市にある社会医療法人渡邊高記念会西宮渡辺病院に在職し5年、この間に部署を経験し、看護部長となって2年が過ぎました。医療の現場は日々進化し、私たちに求められる役割もまた変化しています。しかし、どのような時代であっても、私たちの根底にある西宮市・阪神南地域の「患者さまの命と健康を最優先に」という理念を忘れずに日々邁進しています。

そのような中でも、7月に入り、今年も半分が過ぎました。忙しさにおわれていますが、街のあちこちで紫陽花が色づき始め鮮やかな青や紫の花が雨に濡れている様子を見ると、梅雨も悪くないと思えてきます。

私は昔から雨の日があまり好きではありませんでした。毎日の洗濯物は乾かないし、出かけるたびに傘を持たなければならない。なんとなくうっとうしく感じていました。

しかし年齢を重ねるにつれて、雨の日だからこそ感じられる静けさや落ち着きがあることにある時、気づきました。

先日も朝からしとしとと雨が降っており、その日は予定もなく、家でゆっくり過ごそうと決めていた私は、お気に入りのマグカップに温かい紅茶を入れ、窓辺の椅子に腰を下ろしました。窓ガラスを伝う雨粒を眺めていると、不思議と心が穏やかになっていきました。晴れた日の明るさとは違う、柔らかな光が部屋全体を包み込

んでいました。

窓から見える景色は、様々な色の紫陽花の花が雨を受けながら静かに咲いていました。誰に見せるわけでもなく、ただその場所で季節を迎え、花を咲かせている。紫陽花には、様々な色合いがあることに気づき、少しずつ変化があることが楽しく感じました。またその姿に、少し励まされるような気持ちになりました。

私たちはつい、毎日を忙しく過ごしてしまい、やらなければならないことに追われ、立ち止まる時間を忘れてしまうことも多くあります。けれど雨の日は、そんな慌ただしい足取りを少しだけ緩めてくれる。外の景色を眺めたり、本を読んだり、好きな音楽を聴いたり。何もしない時間さえ、ぜいたくに感じられることもあります。

梅雨が終われば、やがて本格的な夏がやってきます。照りつける日差しや青い空も待ち遠しいが、その前のこの季節には、この季節だけの美しさがある。雨に濡れた紫陽花や、しっとりとした空気、静かな午後の時間。そんな何気ない風景を大切にしたいと思います。

仕事が忙しいとき、気分が落ち込んだときにも心身のリフレッシュは欠かせません。

皆様もそんな時間を作ってみてはいかがでしょうか。

令和 8 年度

第 56 回 定時総会議事録 (速報)

- 1 開催日時 令和 8 年 6 月 18 日(木)
14:55 ~ 15:10
- 2 開催場所 ラ・スイート神戸
オーシャンズガーデン
- 3 総会員の数 243 名
- 4 総会員の議決権の数 243 個
- 5 出席した会員の数 174 名
(委任状出席 0 名、書面議決 144 名を含む)
- 6 出席した会員の議決権の数 174 個
出席率 71.6%

7 出席した役員

理事 橋本創、同 高橋玲比古、同 北川透、
同 東靖人、同 馬殿徹也、同 大江与喜子、
同 藤久和、同 具英成、同 宮地千尋、
同 吉田寛、同 森村安史、同 譜久山剛、
同 大西尚、同 井野隆弘、同 江尻一成
監事 大村武久、同 稲見直邦

8 議事録作成者

副会長 東靖人、副会長 高橋玲比古、
監事 稲見直邦

9 議事の経過の要領及びその結果

(開催のことば)

高橋副会長より、令和 8 年度一般社団法人
兵庫県民間病院協会第 56 回定時総会の開会宣
言が行われた。

(点 呼)

中村事務局長より出席者数の確認報告があ
り、本日の定時総会が定款第 18 条第 1 項の規
定により、成立していることが報告された。

(会長あいさつ)

橋本会長より、就任後 1 年間の協会運営に
対する会員各位の協力に謝辞が述べられた。
また、令和 8 年度診療報酬改定において
3.09%の改定率を確保できたのは、全日本病
院協会や日本医師会をはじめとする中央団体
の尽力によるところが大きく、兵庫県民間病
院協会としては、県や県議会議員等に対し、
医療現場の実情や要望を積極的に伝えていく
必要があるとの発言があった。

(議長選出)

高橋副会長より、議長に医療法人公仁会姫
路中央病院理事長の東靖人先生を選出したい
旨議場に諮り、全員異議なく承認された。

東靖人先生が議長就任のあいさつを行い、
以後、東議長が議事を進行する。

(議事録署名人の選出)

議長より、定款第 21 条第 2 項の規定により、
本日の議事録署名人に医療法人社団さくら会
高橋病院理事長・院長の高橋玲比古先生及び
医療法人社団顕修会顕修会すずらん病院理事
長・院長の稲見直邦先生を指名し選出したい
旨を議場に諮り、異議なく承認された。

(事業報告)

報告事項① 令和 7 年度事業報告の件

北川副会長より、令和 7 年度事業報告書
に基づき、定時総会及び理事会の開催状況、
会報編集委員会、事務長会幹事会等各種会

議の活動状況、会報誌の発行やホームページの運営等広報活動の状況、研究発表会をはじめ医療政策、診療報酬に関する研修会・講演会の開催状況、「神戸圏域医療介護連携システム事業」を実施した旨報告された。

次に、当協会の会員数が本年3月末現在243人である旨報告された。

議長より、以上の報告に対して議場に諮ったところ、全員異議なく了承された。

報告事項② 令和8年度事業計画及び収支予算報告の件

北川副会長より、令和8年度事業計画に基づき、定時総会及び理事会をはじめ、事務長会幹事会、看護部長会幹事会等各種会議の開催、会報誌の発行やホームページの運営等広報活動に関する事業、研究発表会をはじめ経営関係、診療報酬、医療政策等に関する研修会や講演会の開催等を計画的に行うとともに、神戸圏域医療介護連携システムの運営を推進していくことについて報告された。

次に、これらの事業を実施していくための収支予算について、令和8年度収支予算書により、報告された。

議長より、以上の報告に対して議場に

諮ったところ、全員異議なく了承された。

(議案審議)

第1号議案「令和7年度計算書類について承認を求める件」

北川副会長より、令和7年度貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録に基づき、令和7年度収支決算状況が説明された。

引き続き、稲見監事より、監事を代表して「会計帳簿及び関係書類により審査した結果、特に問題はなく正確かつ適正に処理されていることを認めた。」との監査結果が報告された。

議長より、本案について議場に諮ったところ、全員異議なく承認可決された。

(審議終了)

東議長より、以上で本日の定時総会に提案された議事の審議がすべて終了したこと、並びに出席者の協力により円滑な議事進行ができたことに対する謝辞が述べられた。

(閉会のあいさつ)

高橋副会長より、閉会のあいさつに続き、令和8年度一般社団法人兵庫県民間病院協会第56回定時総会の閉会が宣言され、全日程を終了した。



令和8年度 総会後の特別講演会・懇親会の開催について

(一社)兵庫県民間病院協会、(一社)兵庫県全日本病院協会、兵庫県医療法人協会の3団体主催による『特別講演会・懇親会』が、令和8年6月18日(木)神戸市中央区のラ・スイート神戸 オーシャンズガーデンにおいて、3団体定時総会後に開催された。

特別講演会では、厚生労働省 保険局 医療課 課長補佐の佐々木康輔先生を講師にお迎えし、「令和8年度診療報酬改定の概要」と題した講演が行われ、約125名が参加した。講演会では、令和8年度診療報酬改定の概要について、物価高騰や賃上げへの対応をはじめ、医療従事者の処遇改善、急性期医療や地域包括医療の評価、ICT活用による業務効率化など、改定のポイントについて解説が行われた。講演後には質疑応答が行われ、現場が抱える課題について活発な意見交換がなされた。

その後、懇親会が開催され、参加者同士が親睦を深める有意義なひとときとなった。

- | | | |
|----------|---|--|
| 1 日 | 時 | 令和8年6月18日(木) 15:30～19:00 |
| 2 会 | 場 | ラ・スイート神戸 オーシャンズガーデン |
| 3 主 | 催 | (一社)兵庫県民間病院協会
(一社)兵庫県全日本病院協会
兵庫県医療法人協会 |
| 4 スケジュール | | (1) 特別講演会 (15:30～17:00)
講 師 厚生労働省 保険局 医療課 課長補佐 佐々木 康輔 先生
演 題 「令和8年度診療報酬改定の概要」
(2) 懇親会 (17:15～19:00) |



橋本 創 会長



講師 佐々木 康輔 先生



『経営改善に向けた対応』

激変する環境を乗り越える病院経営 —持続可能な医療提供体制の構築に向けて—

兵庫県民間病院協会誌編集委員長
(医社)医仁会理事長・ふくやま病院院長

譜久山 剛



今年度から編集委員長を仰せつかりました明石のふくやま病院、譜久山剛です。

よろしくお願いいたします。

兵庫県民間病院協会の会員の皆様におかれましては、日頃より地域医療の発展と住民の健康維持のため、多大なるご尽力をいただき心より敬意と感謝を申し上げます。

近年の医療機関を取り巻く経営環境は、これまでにない厳しさに直面しております。

長引く物価高騰や光熱費の上昇、深刻化する医療人材不足と採用コストの増大など、令和8年度の診療報酬改定では容易に対応しきれない構造的な課題が山積しています。

正解のない時代において、私たち民間病院が地域での存在意義を保ちながら、いかにして持続可能な経営基盤を確立していくかが問われています。

こうした背景のもと、今年度の会報7月号誌上シンポジウムでは「経営改善に向けた対応」をテーマに掲げ、会員病院の皆様から示唆に富む5つの実践報告をお寄せいただきました。各病院の取り組みは、置かれた地域特性や病床機能に応じて多角的なアプローチがなされてい

ます。

尼崎医療生協病院様からは、経営危機においてトップダウンの「お断りしない宣言」を発信しつつ、現場のボトムアップとデータ共有を融合させ、地域包括医療病棟へのスムーズな転換を成功させた取り組みを示していただきました。

めいわりハビリテーション病院様からは、新設病院における組織の醸成（サンクスカード等の活用）や、ICT・医療DXの推進、外部委託（BPO）の積極的活用による経営効率化への総合的なアプローチについて発表いただきました。

神戸朝日病院様からは、従来の病院主体の活動から脱却し、地域の一員として住民と同じ目線で関わる協働型の活動に転換することで地域の信頼を深め、結果として病床稼働率の向上、経営基盤の安定に繋がられた取り組みをご紹介いただきました。

東加古川病院様からは、病院経営の生命線である「人材定着」に焦点を当て、客観的データを基にした処遇改善の地道な積み重ねが離職率の大幅な削減と医療・介護サービスの質の向上

に繋がった経緯をお教えいただきました。

井野病院様からは、職員のコスト意識の浸透と「救急を断らない」という明確な方針提示により、応需率と入院稼働率のV字回復を果たした「出ずるを量りて、入りを謀る」実践例のご報告をいただきました。

これらの報告に共通しているのは、単なる一時的な数値合わせの経費削減にとどまらず、「人（職員・住民）との関係性」の再構築や、組織の「構造的な変化」を伴う本質的な改革であるという点です。

本シンポジウムの記事が、会員の皆様にとって明日の病院経営への新たなヒントとなり、激変する社会情勢を共に乗り越えていくための糧となれば幸いです。最後になりますが、大変お忙しい中、貴重な経営実践の知見をご執筆いただきました5病院の皆様に、編集委員会を代表して深く感謝申し上げます。

会報誌が皆様のお役に立ち、送られてくるのが楽しみな読み物となるように会員病院の皆様方にお教えいただきながら発信してまいりたいと思います。

今後ともよろしくお願いいたします。

地域に求められる病院を目指して —トップダウンとボトムアップで当院の存在意義を問い直した—

尼崎医療生活協同組合 尼崎医療生協病院事務長

向井 章雄



病院名：尼崎医療生活協同組合

尼崎医療生協病院

開設：1981年4月

院長：大澤芳清



病床数：5病棟199床

外来：患者数約260名/日。内科、整形外科、外科、産婦人科、皮膚科等。健診事業。

職員数：約400名（非常勤含む）

2階東病棟	急性期病棟	52床
3階西病棟	地域包括医療病棟	52床
3階東病棟	地域包括ケア病棟	55床
4階病棟	緩和ケア病棟	20床
2階西病棟	休床中	20床

尼崎医療生協病院の理念

私たちは、一人ひとりが地域社会で尊重される暮らしを営めるようともに歩みます

尼崎医療生協病院の基本方針

～私たちは、理念を達成するため「医療福祉生協のいのちの章典」に基づき、以下を基本方針とし、安全で質の高い保健・医療・福祉サービスを実践します～

1.新たな専門性

個別の専門性を追求するだけでなく、職種を超えて協働できるスキルを獲得します

2.つながる医療

あらゆる人や組織とつながり、チーム医療を創造し続けます

3.いのちの平等

多様な価値観を受け入れ、社会的・文化的に差別をしません

4.価値共創

対話を重視し、自分らしく生きる意味や価値をともに創ります

＜病院紹介＞

当院は兵庫県尼崎市西部に位置する199床の病院である（2020年3月末にて産婦人科病棟を閉鎖し現在179床で運用）。急性期一般病棟、地域包括医療病棟、地域包括ケア病棟、緩和ケア病棟を有し、地域住民の健康を支える医療機関として診療を行っている。

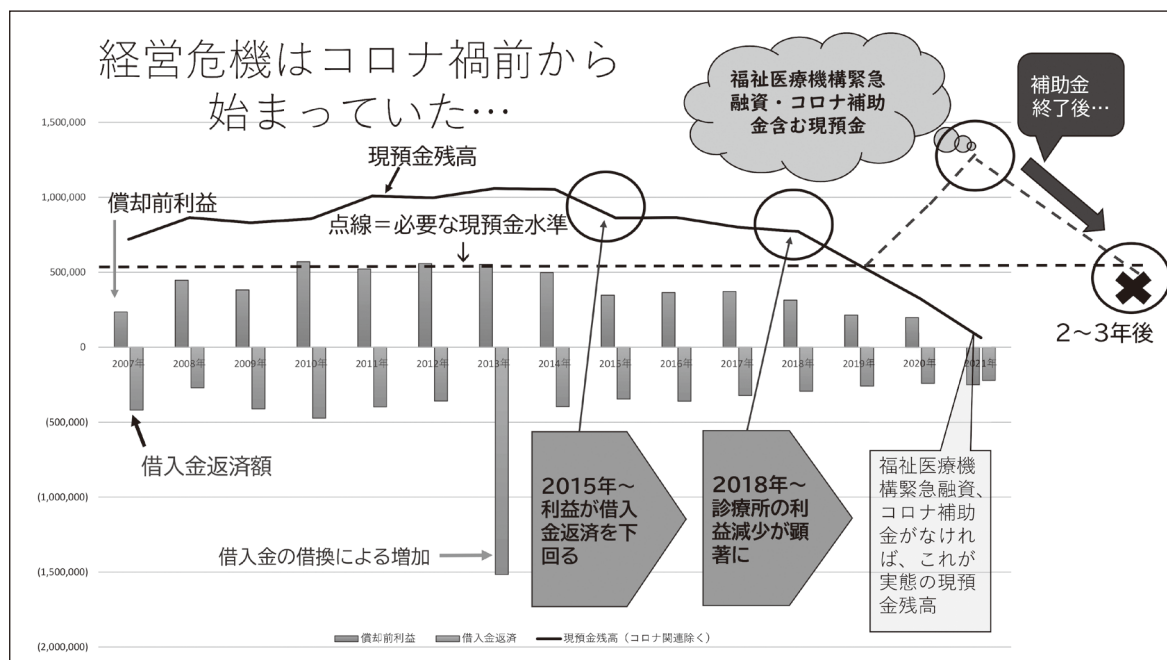
当院を含む尼崎医療生協は全日本民主医療機関連合会に所属し、「無差別・平等の医療と福祉の実現」を理念に掲げ、地域住民も医療生協の組合員として共に歩んできた。しかし近年、医療を取り巻く環境は大きく変化した。医師確保の困難さや人口構造の変化、地域医療機関との競争激化に加え、新型コロナウイルス感染症への対応などにより、経営状況は厳しさを増していった。

＜2020年度の経営危機＞

2020年度決算において、当法人は全日本民医連の経営指標に該当し、「このままでは資金ショートにより経営継続が困難になる可能性がある」との指摘を受けた。私自身、2015年度頃から償却前利益が借入金返済額を下回る状況が続いていたことを十分に認識できておらず、経営課題への対応が後手に回っていたことを痛感した。

経営危機に直面した私たちは、まず病院として果たすべき役割を改めて問い直した。その中で見えてきた最大の課題は、「地域からの依頼を断っている病院になってしまっている」という現実であった。

病床が空いていても受け入れを断る。診療所や介護施設からの相談に十分応えられない。救急要請への対応も消極的になる。こうした積み重ねが、地域からの信頼低下につながっていた。



＜お断りしない宣言＞

そこで2021年12月、病院長名で全職員に対し「お断りしない宣言」を発信した。医療機関や介護施設、地域住民からの受診・入院依頼に対して、まずは「診察します」「入院対応します」

と返答することを基本方針としたのである。

もちろん現場からは多くの不安や反対意見が寄せられた。病床不足への懸念、人員体制への不安、業務負担の増加など、もっともな意見ばかりであった。しかし経営危機の状況下では、

時間をかけて合意形成を図るだけでは変化は生まれません。トップマネジメントとして方向性を明確に示す必要があった。

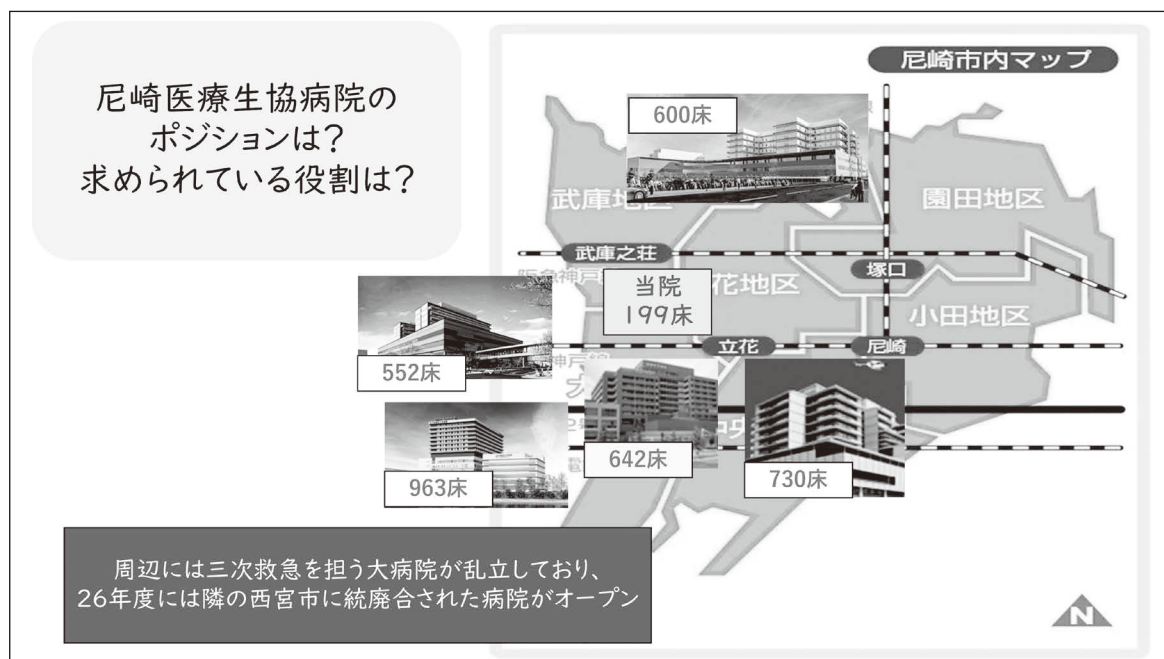
その後、全職員集会を繰り返し開催し、経営状況を包み隠さず共有した。また、私たちが地域で果たすべき役割や病院の存在意義についても対話を重ねた。

すると職員の中に、「自分たちは断っている病院になっている」「本来の役割を果たせていないのではないか」という共通認識が生まれて

いった。各部署が主体的に受け入れ体制の改善に取り組み、断らない医療を実践してくれるようになった。

その結果、救急隊からの搬送依頼は増加し、法人内外診療所からの入院紹介件数も大きく伸びた。さらに近隣の高次医療機関との連携強化により下り搬送患者の受け入れも増加した。介護施設との協力医療機関連携も進み、新たな入院患者確保につながっている。

尼崎医療生協全職員のみなさま 尼崎医療生協病院全職員のみなさま 日頃の奮闘ありがとうございます。 私たちがコロナ感染によるクラスターを経験して1年が経ちました。 大変な状況から皆様の頑張りで、ここまで診療を再開することができました。ありがとうございます。 私たちは民医連綱領や医療福祉生協の理念を実現する立場で診療を行なってきました。本年度は地域の受療権を守ることを目標に医療活動を行っています。 地域には様々な問題で病院を受診されていない方が、たくさんいると言われています。コロナで仕事を失った、住まいを失くした方も多くとも聞きます。 私たちの医療機関は困難をもった方にも無料低額診療など利用して医療を届けることができます。 みなさんのお力で、1人でも多くの病気で困りの方に医療を届けたいと思います。 私たちは入院できるベッドを持っており、この力を使って今以上に地域に貢献します。	12月7日 入院断らない宣言
病院職員のみなさまにお願いします。 2021年12月8日朝9時より対応は以下のようにお願いします。 医療機関や地域住民の方から入院依頼や受診依頼がきます。 ご依頼の電話や連絡を受けた方は、お待たせすることなく「診察させていただきますので、ご来院ください」「入院対応させていただきますので、ご来院ください」とすぐご返答をお願いします。 その後、医師、看護師など対応部署にご連絡をお願いします。 病棟は必ずベッドを用意して患者さまが入院されるのを待っております。もし、ベッドがなくても私たち管理部が何とかします。この対応で職員間に問題が発生するようでしたら管理部にご連絡ください。管理部が上記の対応をおこなっていただくようお願いさせていただきます。 まずは法人内に向け上記の対応を発信いたします。 その後地域の医療機関や施設、ケアマネジャー向けに発信いたします。 お忙しい中ではありますが、ともにがんばり前に進みましょう。 2021/12/7 尼崎医療生協病院 管理部	



＜地域包括医療病棟の導入＞

一方で、経営改善を持続的なものにするためには、単に患者数を増やすだけでは不十分である。地域で求められる病院機能を再構築し、将来を見据えた病床戦略が必要であった。

当院周辺には三次救急を担う大規模病院が数多く存在している。さらに近年は病院統合・再編により500床を超える医療機関が新たに誕生し、高度急性期医療の集約化が進んでいる。

こうした環境の中で、当院が果たすべき役割は何かを検討した結果、高齢者救急を中心とした地域包括医療の強化が必要であるとの結論に至った。

当院では以前から病棟稼働状況や病床利用率、在院日数などを毎日職員で共有してきた。医事課が作成する病棟稼働表や外来日報をもとに、管理部朝礼、医局朝礼、看護部昼礼、ベッドコントロール会議などで情報共有と議論を積み重ねてきた。

こうした日常的なデータ共有と現場の議論が、2024年度診療報酬改定で新設された地域包括医療病棟への転換につながった。

転換した病棟は、もともと地域包括ケア病棟への移行を見据えて施設基準の準備を進めてい

た経過があり、新制度への対応を比較的スムーズに進めることができた。

しかし導入は容易ではなかった。365日リハビリテーション体制の整備、管理栄養士による早期介入、退院支援の強化など、多くの課題があった。職種ごとに不安や課題を出し合いながら、導入の意義を共有し、一つひとつ解決していった。

地域包括医療病棟導入後は、高齢者救急患者の受け入れがさらに進み、地域から求められる役割を果たしながら収益改善にもつながっている。また、病床機能の明確化によって各病棟の役割が整理され、病院全体の運営効率も向上した。

＜地域のハブ病院というビジョン＞

私たちは経営改善の議論を進める中で、「地域のハブ病院」という将来像を掲げた。高度急性期医療を担う病院でもなく、慢性期中心の病院でもない。地域の診療所、介護事業所、介護施設、高次医療機関をつなぎ、地域の困りごとに応える結節点となる病院を目指したのである。

そのためには、「断らない」ことが前提となる。救急患者、高次医療機関からの下り搬送患者、

施設入所者、法人内診療所からの紹介患者など、地域で医療を必要とする人を受け止める機能を強化しなければならない。また、地域包括医療病棟の導入は、高齢者救急を中心とした地域包括ケアシステムの中核を担うための病床再編でもあった。

＜地域からの信頼回復＞

振り返れば、2020年度末に199床 5 病棟であった当院は、産婦人科病棟の閉鎖、手術治療の廃止、コロナ禍による大クラスターなどを経て、一時は平均入院患者数が100人を下回るまでに落ち込んだ。しかし、「お断りしない宣言」と「地域包括医療病棟導入」を柱とする経営改善によって、患者数・収益ともに回復傾向を示している。

2025年度決算では、経常利益1億円以上を計上し、予算比でも7,000万円の増益となった。もちろん診療報酬改定の影響や地域包括医療病棟導入による収益改善などの外部要因もあるが、地域からの紹介患者や救急搬送患者の増加、

病床機能の見直し、職員一人ひとりの意識改革が成果として表れたものと考えている。

一方で、物価高騰や人件費上昇、人材確保の困難さなど、医療機関を取り巻く環境は依然として厳しい。しかし今回の経験を通じて学んだことは、経営危機の際にはトップダウンによる明確な方向性の提示が必要であり、一方で持続的な変革には現場の主体性を生かしたボトムアップの取り組みが欠かせないということである。

病院経営に万能な答えはない。その時々組織の状況や成熟度に応じて、トップダウンとボトムアップを適切に使い分けながら変化を生み出していくことが、経営者に求められる役割だと考えている。

これからも地域の「困った」に応える病院として、地域住民、医療機関、介護事業所との連携を深めながら、持続可能な病院づくりに取り組んでいきたい。

経営改善に向けた対応

(医)信和会 めいわりハビリテーション病院事務長代理

杉 一樹



1. はじめに

日本の病院経営は、人口減少、医療需要の変化、医療従事者不足、物価高騰など、複数の課題が同時進行する厳しい環境に置かれています。

持続可能な運営には効率的な資源活用が重要であると考えています。

2. 病院の現状

まずは当院についてご紹介を簡単にさせていただきます。

めいわりハビリテーション病院は、阪神甲子園駅から南に徒歩15分、明和病院からも車で約10分の場所に位置し、令和6年1月1日に開院しました。3年目を迎えており、職員一同、日々頑張っております。

当院は地域包括ケア病棟50床、回復期リハ

ビリテーション病棟50床、療養病棟53床の合計153床を持つ病院です。

安定した経営を目指し、明和病院からの受入れを主軸として、それ以外の近隣病院やクリニックとの連携を密にすべく、営業活動や組織の醸成を進めてまいりました。

3. 経営効率化に向けた主要施策

3-1. 組織の醸成：(モチベーションの維持、風通しの良い組織)

開設時のオープニングスタッフは、母体である明和病院から約3割、7割は様々な施設や地域から集まってのスタートとなりました。環境の違い、文化の違い、価値観の違いからののはじまりとなりました。

まずは良い組織風土ができあがることによって、人間関係や仕事をする環境や雰囲気良くなり自然とモチベーションが上がります。

良い職場風土が根付くように願い、各部署にて新病院を作り上げていくために従業員の思いを聞いていきました。

少しずつスタッフが増えて全床を運営できるようになりました。

院内の事例をご紹介します。

一番大所帯の看護部では、一昨年から始めたパブリックミーティングにて、職員の皆さんからのご意見やアイデアを拾い上げ、職場環境の改善に反映させています。職員全員の定期的個人面談では、個々のキャリアアップ、未来に向けた希望の面談を実施しています。当院では外国人労働者が15名在籍し、各人との日本語日記(看護部長との交換日記)を行っています。また事務員とは朝礼、夕礼にて体調や気になった事などをヒヤリング、またこちらからトピックスを提供しています(今年4月より自転車の規制強化等)。週1回は明和病院にて夕礼を実施し、明和病院の事務員ともコミュニケーションを密にしています。

次にリハビリテーション部です。

仕事へのモチベーション向上、スキルアップとリハビリ部門の組織交流を目的に①勉強会、②症例検討会を実施しています。

若いメンバーが多く、参加率も高い状況です。

①勉強会の概要

- ・開催は毎週月曜日
- ・対象はリハビリスタッフで1年目職員の参加は必須

勉強会のテーマは、新人が聴講したい内容と上長たちが身に付けておくべきと考えているリハビリスキルなどです。

②症例検討会の概要

- ・開催は月に一度(急性期病院である明和病院と当院が持ち回りでzoomで実施)
- ・対象は4年目以下のスタッフは参加が必須
- ・急性期と回復期のそれぞれの患者についての報告を聞くことで、幅広い知見が得られる

参加者から、リハビリ実施内容についてのアドバイスなどが聞けるため学習効果は高いです。

コメディカル会議について

月1回、セラピスト、患者支援室、看護部、事務、医事課にて、コメディカル会議を実施、情報の共有や業務運用の課題などを共有し、改善を進めています。

最近では電子カルテシステムの運用に対するテンプレートの導入などを進めています。

サンクスカード

最後に院内全体で実施したイベントをご紹介します。

「スペシャルサンクス月間 ありがとうの気持ちを伝えよう」

たくさんの「ありがとう」を、心をこめて

嬉しかったこと、助かったことなどをカードに記入して感謝を届ける取り組みです。

たくさんのサンクスカードが集まりました。
(これは職員、委託業者を含めて院内で

業務している全ての方を対象としました)



歴史の浅い当院としては、過去のしがらみがありません。その分、風通しは良く、また継続的に良くしていこうと考えています。

このような取り組みを続けて行うことにより、モチベーションの維持や意見などが言いやすい風土作りを進めています。

3-2. ICT・医療DXの推進

昨今、医療DXについてはいろいろ話題となっており、導入することで診療効率の向上や患者満足度の向上にも繋がります。

まずメインシステムである電子カルテシス

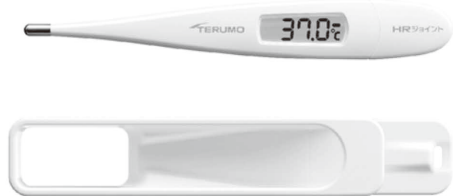
テムや医事会計システムは明和病院と同じシステムを導入し、情報の共有化、効率化を図っています。

当院では、その他に下記のシステムを導入中です。

①通信機能付き測定連携システム

「手入力」から、測定器をタッチするだけの「スマート入力」へ。

当システムは、看護業務の入力作業の効率化や未入力、誤入力のリスク低減、タイムリーなデータ共有を実現しました。



②病床管理業務支援システム

電子カルテ等の医療情報を二次活用し、最適な病床管理業務を実現。

③病室ネームボードシステム

病室前には、入室した患者さんのネーム

ボードシステムが設置してあります。

当システムと電子カルテシステムとの連携により転室、転棟の際にプレートの移動忘れなども未然に防げます。

病棟業務の効率化に一役買っております。



今後、導入予定のもの

①床走行リフト

DXと呼べるものかどうかはわかりませんが、機器を導入し、業務効率向上に向けた1例をご紹介します。

全介助で移乗する場合、看護師にかかる負担が強くなります。また患者さんも移乗の手技によっては苦痛を伴うことがあります。

移乗に介護者2～3人で行う必要があります、これらのことからリフト使用により介護者、患者ともに負担を軽減し安全に移乗が可能となります。

リフトがあることでベッド上で過ごしている患者が車椅子、リクライニング車椅子に移乗する機会を増やし面会時にロビーで過ごす、散歩をするなど実施することができ、看護師の負担軽減や転倒リスクを防ぐ効果も期待できます。



3-3. 外部委託（BPO）の活用

外部委託は専門性が高く、品質も安定し、定型化しやすい業務については経営効率化に

有効であると考えています。

当院では、物品管理、清掃業務、警備業務、ユニホームのリース・クリーニング、保育所やニュークックチルについては外部委託を採用しています。

今回は、ニュークックチルについてご紹介させていただきます。

【ニュークックチル導入】

委託給食会社の人員不足の問題や厨房のような広い場所、大型調理機器が不要ということもあり、開院と同時にニュークックチルを導入しました。

【ニュークックチルのメリット】

①人員不足軽減

設定時刻に自動で再加熱でき、調理や盛り付けのスタッフが不要となります。

②適時適温での食事提供

食事を提供する直前に再加熱するので、いつでも作りたてのような温かい食事を届けることができます。

③安全性

芯温75℃、1分以上で確実に加熱。

- ・保冷から再加熱までを機内で行っていることで安全性の確保が可能
- ・再加熱後の即時提供が実現し、2時間以内の配膳・喫食が容易にできる



3-4. 各病棟指標について

院長をはじめ、病院幹部にて各病棟の病床利用率やその他の指標について共有を行っています。その時点での課題や改善策を共有しています。

<地域包括ケア病棟>

入院単価、病床利用率、在宅復帰率、在宅からの入院率、看護必要度、緊急入院件数、新規入院等

<回復リハ病棟>

入院単価、病床利用率、在宅復帰率、重症の新規入院患者数、FIM又は日常生活機能評価改善率等

<療養病棟>

医療区分1、2、3、医療区分2+3等

また月1回の経営会議では、理事長や明和病院の副院長を交えて収益、費用、その他の課題や改善点などを共有して、信和会としての経営最適化に向けて、議論を交えています。

3-5. 地域連携の強化

医療機関・介護施設・在宅医療の連携について、地域全体の医療提供体制の効率化を目指します。

地域連携強化と入院受入れ体制の最適化を進めています。

入院相談から受入れまでの迅速化、パンフレット等の広報媒体の充実と医療機関・在宅事業所との関係構築の強化、近隣の医療機関への訪問などにて、ニーズを拾い上げ、今後の運営に活かしてまいります。

3-6. 患者満足度向上の施策

患者アンケートを元に、課題、改善点を院内で共有しています。

また当院では、入院期間が長期化する患者さんもあるため、季節感を感じて頂けるように季節イベントを開催しています。

<目的>

- ①患者、家族との交流を深め、笑顔で楽しく健康回復への意欲を高める。
- ②職員が一丸となってイベントに協力しあって絆を深める

昨年の秋まつりの様子をご紹介します。

1階にピアノが設置されているため、ロビーで開催しました。飾り付けや小道具は手作りです。

当日は綿菓子も用意して、ご家族にお配りしました。大変盛り上がり、今後も継続を予定しています。

歌が上手と評判の守衛さんや西宮保健所健康増進課（西宮いきいき体操チームの皆様）もご参加頂き、フレイル予防のための「いきいき体操」を実施して頂きました。



上記の他は、昨年クリスマス会も実施、今年は七夕イベントを企画中です。

4. まとめ

病院経営の現状と課題を整理し、経営効率化に向けた主要施策を記載させて頂きました。組織の醸成、ICT活用、外部委託、各病棟指標、地域連携、患者満足度向上といった取り組みを総合的に進めることで、持続可能な経営基盤を構築してまいります。

医療法人信和会の理念は「親切と信頼を目

指した医療」であり、理念浸透型・健康経営を主軸として運営しています。

これからも社会貢献を果たすべく、民間・中規模の特色を活かし、「小回りの利く、親切で信頼できる総合病院」として、急性期医療に特化した「明和病院」とリハビリ慢性期医療に特化した「めいわりハビリテーション病院」との連携にて、地域の皆様のお役に立ちたいと考えています。

今後ともよろしくお願い致します。

経営改善に向けた対応 —「地域との関係性」を基盤とした構造的経営改善の実践—

(医社)秀英会 神戸朝日病院事務局長

天野 弘明



1. はじめに

神戸市長田区北部地域は、神戸市内においても特に高齢化が進行している地域である。今後、全国的に同様の課題が広がっていくことが予測される中、この地域における医療機関の役割は一層重要性を増している。こうした地域特性のもとでは、医療ニーズの質・量ともに変化し、それに応じた医療提供体制の

構築が求められる。これらは病院経営にも直接的な影響を及ぼすこととなる。

医療機関を取り巻く経営環境は厳しさを増しており、病床稼働率の向上や診療単価の改善といった数値的な取り組みは、いまや当然の前提となっている。しかしながら、それらの積み上げのみで持続可能な経営が実現できるかといえば、必ずしも十分とは言えない。

当院においても、これまで体操教室や栄養教室などの地域活動を実施してきたが、ある違和感があった。

「本当に支援を必要としている人に、医療は届いているのか」

本稿では、この問いを出発点として、地域連携の在り方を見直し、「なくら・さかみち協議会」を軸とした取り組みが、どのように経営基盤の強化へとつながっていったのかについて報告する。

2. 従来の地域活動の限界

従来の地域活動は、病院が主体となり企画・発信する形で行っていた。しかし、その情報に触れ、実際に参加されるのは、比較的健康意識が高く、自ら移動が可能な方々が中心であった。すなわち、「情報にアクセスできる人」には届く一方で、「本当に困っている人」には届いていなかったのである。また、地域課題は単に機会や場所を提供すれば表出するものではなく、日常的な関係性の中で初めて見えてくるものである。このような経験から、従来の「発信型」の地域活動には限界があり、「関係性そのもの」を再構築する必要があると考えるに至った。

3. 転機—地域の中に入るという選択

そのような中、当院は房王寺ショッピングセンターを拠点とするKIBISOや長田区役所

地域協働課と出会い、神戸市の地域活性化施策の一環として実施された「アクションゼミ」に参加した。このゼミでは、地域を「風の人（活動を生み出す人）」「水の人（支える人）」「土の人（地域で暮らす人）」という視点で捉え、現在は地域の基盤である「土の人」が弱体化しているという課題が共有された。また、地域を実際に歩き、住民や関係者と対話を重ねる中で、これまでの病院の視点だけでは見えていなかった課題やニーズが数多く存在することを実感した。この経験を通じて、病院が主体となって何かを提供するのではなく、地域の一員として同じ目線で関わることの重要性を強く認識した。

4. 実践—地域が主役となる取り組みへ

取り組みの契機となったのは、地域で長年親しまれてきた駄菓子店の店主、通称「しろくまさん」の存在である。しろくまさんが高齢となり入院されたことをきっかけに、「このまちをもう一度盛り上げたい」という想いが地域内で共有され、房王寺アーケードマルシェの開催へとつながった。このマルシェは、地域住民や事業者、行政が主体となって実施され、多くの人が集う場となった。当日は、入院中のしろくまさんに対し、病室からテレビ電話を通じてその様子を共有することができ、地域のつながりを象徴する出来事となった。この活動を一過性のものとせず、継続的な取り組みとして発展させるために設立されたのが、「なくら・さかみち協議会」である。



同協議会は、地域団体・事業者・行政が連携し、地域活性化や人材育成、子どもの居場所づくりなどに取り組むものであり、神戸市においても公表されている。また当院は、人

間ドックおよび生活習慣病予防健診の受診者数に応じた寄附を行う仕組みを提案し、地域の健康とまちづくりを連動させる新たな取り組みを進めている。

なくら・さかみち会議

地域を活性化したいと思う人たちを募り



5. 構造の変化と経営への影響

これらの取り組みにより、当院と地域との関係性は大きく変化した。従来は、病院が主体となり発信する「提供型」の関係であったが、現在は地域が主役となり、病院はその一員として関わる「協働型」の関係へと転換している。地域が主体となり、病院はその一員

として同じ目線に関わる関係である。この変化により、地域住民や関係者との信頼関係が深まり、これまで接点のなかった層とのつながりが生まれている。結果として、相談機会の増加や紹介の拡大など、医療提供へとつながる動きも見られるようになった。また、地域住民や事業者、行政との関係性が深まる中

で、「最近見かけない人」「少し気になる人」といった日常の気づきが共有されるようになり、これまで接点のなかった層とのつながりが生まれつつある。

従来のように医療機関が一方向に情報発信を行うだけでは届かなかった人々に対し、地域の関係性の中で支援が届く可能性のある経路が形成されていると考えられる。これは、医療を「提供する」ことにとどまらず、支援がこぼれ落ちにくい地域の構造をつくる試みである。

なお、当院の病床機能は、急性期一般入院料4（76床）および地域包括ケア病棟（58床）の計134床で構成されており、直近の平均在院日数は約16日である。このような急性期機能を主体とした病院において、安定した高稼働率を維持することは容易ではない。その中で、当院の病床稼働率は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた2020年度81.1%、2021年度82.2%から回復し、2022年度88.6%、2023年度91.4%、2024年度94.7%、2025年度には95%台に到達している。これらは診療体制の整備のみならず、地域との関係性の深化により、これまで接点のなかった層とのつながりが生まれたことも一因として考えられる。すなわち、地域との信頼関係の構築が、結果として医療提供機会の拡大および経営基盤の安定化につながる構造が形成されつつあると捉えている。

6. おわりに

これからの病院経営に求められるのは、「こ

の地域にあったらよい病院」ではなく、「この地域になくてもならない病院」である。そのためには、病院が主役となるのではなく、医療者自身が地域の一員として関わり、地域の中に自然と溶け込み、気づけばそばにいる存在となることが重要である。

本稿で紹介した取り組みは、短期的な収益改善を目的としたものではない。しかしながら、地域との関係性を基盤とした構造的なつながりこそが、長期的な経営の安定を支えるものであると考えている。さらに、本取り組みは特別な資源や体制がなければ実現できないものではなく、地域の中に入り、同じ目線で関係性を築くことから始まるものである。規模や環境の違いはあっても、どの地域においても実践し得る取り組みである。

今後も地域の一員としてまちづくりに関わり続けることで、医療と地域が相互に支え合う関係性を構築し、持続可能な医療提供体制の実現を目指していきたい。



※本取り組みの様子については、参考として動画をご覧ください（QRコード参照）。

房王寺アーケードマルシェの様子（約2分40秒）

人材定着への投資がもたらした経営改善

(医)達磨会 東加古川病院事務長

永田 健



この度、「経営改善に向けた対応」という病院経営の根幹に関わるテーマで執筆の機会をいただいた。しかし、いざ筆を執ろうとして自身の歩みを振り返ったとき、最初に頭に浮かんだのは、「書けるほど大したことをやっていない」という率直な戸惑いであった。

これまで当院でも、LED化やペーパーレス化の推進、事務用品の節約、水光熱費の細かな管理など、考え得る限りの経費削減に取り組んできた。しかし、コロナ禍以降の経営環境は、それまでの常識が通用しないほど大きく変化した。

感染対策に必要な医療資材は高騰し、備蓄コストも増大した。食材料費や光熱費も上昇を続け、現場でいくら節約を呼びかけても、数パーセントの削減努力が数十パーセントの価格上昇によって簡単に打ち消されてしまう状況となった。さらに、施設設備の老朽化も深刻である。エレベーター改修工事や空調設備更新など、多額の設備投資を余儀なくされる場面も少なくない。

もはや現場レベルの節約努力だけでは対応しきれない時代となったのである。

病床利用率についても、コロナ禍以前の水準まで回復することは容易ではなく、医業収益は低迷したままである。令和6年度および令和7年度決算では医業利益が赤字となり、物価高騰対策等の補助金によって何とか経常利益の赤字を回避できたというのが実情であった。

令和8年度診療報酬改定では一定の引き上げが実施されたものの、その内容を精査すると、従来の処遇改善加算相当分が組み込まれるな

ど、病院経営の改善を実感できるほどの内容ではなかった。試算上は今年度の医業利益改善が見込まれるものの、将来的な施設改修費用や設備更新費用の積立まで考慮すると、決して楽観できる状況ではない。

このような状況の中で、私が事務長に就任したのは令和5年4月である。気づけばあっという間に3年が経過していた。

この3年間を振り返ってみても、華々しい経営改革を実行した記憶はない。前職である総務課長時代の業務を部下に引き継ぎながら、各種委員会への参加、給与処理関連業務、予測不能なクレーム対応、さらにはハラスメント相談への対応など、いわゆる「正解のない労務管理」の現場に日々追われ続けてきた。そのような日々の積み重ねの中で、「自分は一体何を改善できているのだろうか」と感じることも少なかった。

そんな私が、直近で主導して取り組んだ経営改善として思い当たったのが、「入院ベースアップ評価料」への対応と、それに伴う給与改定の検討から実施までの一連の取り組みである。

一見すると、単なる制度対応に過ぎないようにも思える。しかし振り返ってみると、この取り組みは当院が長年抱えてきた最大の経営課題である「人材定着」と深く結びついていた。

時計の針を10年ほど前に戻してみたい。

当時の当院における人材定着の状況は極めて深刻であった。極端な表現をすれば、「毎年80人採用して、毎年80人退職する」という状況であった。採用しても定着せず、常に人員不足に悩まされる。まるでザルで水をすくうような状

態であり、採用コストも現場の教育負担も限界に達していた。

当時、私は給与担当者として退職する職員一人ひとりから退職理由を聞き取っていた。

もちろん退職理由は様々である。家庭の事情、人間関係、キャリアアップなど、それぞれに事情があった。しかし、その中で繰り返し耳にしたのが、「給与や待遇への不満」と「将来への不安」であった。

他院と比較した際の給与水準の低さ。責任や業務量に見合わない処遇。将来に対する見通しの立てにくさ。これらが職員のモチベーションや組織への帰属意識を低下させていることは明らかであった。

私は事務長になる以前から、給与担当者としての実務経験を通じて、「人材を定着させるためには、給与水準そのものを改善しなければならない」と考えていた。そして、その考えを経営陣に対して提案してきた。

もちろん、病院経営において人件費に充てられる原資には限りがある。全職員の給与を一律かつ大幅に引き上げることは現実的ではない。

そこで必要となったのが、経営資源の選択と集中であった。

当時、当院にとって最も大きな課題は看護師の確保であった。看護配置基準を維持できなければ診療報酬にも大きな影響が及び、病院経営そのものが成り立たなくなる。言い換えれば、看護師の定着は病院の生命線であった。

そのため、まずは看護師の給与改善を優先的に進めることとした。

具体的な制度設計にあたっては、経験や感覚だけに頼らず、できる限り客観的なデータを活用した。近隣病院の募集条件を調査し、民間病院協会の給与実態調査や業界データを収集した上で、自院の立ち位置を把握した。そして、「少なくとも地域平均以上」という水準を目標として給与改定を進めた。

また、外部環境の変化も追い風となった。

近年、最低賃金は大幅に上昇している。10年

前と比較すると約300円近い上昇となっており、看護助手など一部職種については、この流れに対応する中で結果として給与改善が進んだ。

最低賃金の上昇は、経営側から見ればコスト増という側面もある。しかし見方を変えれば、組織全体の処遇改善を進める契機にもなり得る。当院では、その変化を前向きに捉えながら給与体系の見直しを継続してきた。

さらに近年は、各種処遇改善施策やベースアップ評価料などの制度も積極的に活用している。制度を単なる事務手続きとして処理するのではなく、いかに職員へ還元し、定着につなげるかという視点で取り組んできた。

もちろん、人材定着は給与だけで決まるものではない。

職場環境、人間関係、教育体制、組織文化など、様々な要素が影響する。しかし、安心して生活できる給与水準がなければ、どれほど理念を語っても職員の心には届かない。給与は職員に対する組織からのメッセージでもある。

その意味で、これまで積み重ねてきた処遇改善の取り組みは、人材定着の基盤づくりであったと考えている。結果として、当院の人材定着状況は大きく改善した。

かつては毎年80人程度が退職していた状況から、現在では40人程度にまで減少している。単純計算では離職者数を約50%削減できたことになる。

職員数が安定したことで、現場には中堅職員やベテラン職員が残るようになった。教育体制も整い、職員の育成にも好循環が生まれている。医療・介護サービスの質の向上だけでなく、組織としての一体感も以前とは比較にならないほど強くなった。

振り返れば、私が取り組んできたことは決して華々しい経営改革ではなかった。

新規事業を立ち上げたわけでもない、劇的な増収策を成功させたわけでもない。制度を活用し、限られた原資をどこに配分するかを考え続け、地道に処遇改善を積み重ねてきただけ

である。そうした凡事の徹底こそが、組織を少しずつ、しかし確実に変えていく力になるのではないだろうか。

現在も私の日常は、ハラスメント相談やクレーム対応、問題職員への対応など、地味で神経を使う業務の連続である。しかし、その根底には給与担当者時代から変わらない「職

員が安心して働ける環境を守りたい」という思いがある。

今回、執筆の機会をいただいたことで、自身自身の歩みを改めて振り返ることができた。そして、人材定着への投資こそが、結果として最も大きな経営改善につながっていたのだと再認識することができた。

「経営改善」について

「心が変われば態度が変わる、態度が変われば行動が変わる、行動が変われば習慣が変わる、習慣が変われば人格が変わる、人格が変われば運命が変わる」米心理学者ウィリアムジェームスの有名な言葉です。ビジネスにおいて、激変する社会情勢に対応するため、様々な名言・格言を引用し、従業員に変化への対応を促します。最も良く使われるのはダーウインの進化論でしょうか。「最も強いものが生き残るのではない。最も賢いものが生き残るのでもない。唯一生き残るのは、変化できる者である」という名言です。「改善」、「改革」を謳うにあたり、これらの名言は的を得たものであると思います。

日本の社会情勢、特に働き方はコロナ禍を経て大きく変化しました。我々の医療業界も、この大きな変化に適応できなければ生き残ることができないと確信しています。

旧来、医療業界は国民皆保険制度の下、護送船団方式により守られて来ました。しかし、少子高齢化に伴う人口動態の中で、これを維持し続けることが極めて困難であることは、言葉に出さずとも周知の事実であります。一般企業で

あれば、「経営改善」を実現するには先ず現状把握を行った上で、あらゆる角度からの「ムリ・ムダ・ムラ」の排除による徹底した経費の削減に取り組みます。その上で更なる経費削減策としてリストラを慣行します。まさに企業として生き残りを賭け「入るを量りて出ずるを制す」を実践するのです。

では、我々民間病院はどうでしょうか？一般企業と病院には経費率に大きな違いがあります。総経費の内、人件費が占める割合が病院は一般企業の倍以上あり、製造原価のほとんどを人件費が占めている構成になっています。病院は有資格者の集団であり、昨今の労働力（医療従事者）不足などの背景により、市場は完全に売り手側に偏っております。何より施設基準の維持も大きな課題であり、リストラによる人件費削減を慣行することは、不可能です。従って、病院は「入りを量る」のではなく、「出ずるを量りて、入りを謀る」としなければならないと考えます。

当院は、姫路市大塩町に在る、100床の病院で、急性期50床と地域包括ケア50床で構成してい

(医社) 汐咲会 井野病院統括部長

河内 雅孝



ます。前回の診療報酬改定により、令和6年度決算では、当院もご多分に漏れず赤字に陥りました。外来ならびに入院患者数が、コロナ以前の水準に戻り切らない中での診療報酬の実質減額ならびに急激な物価高騰が大きく響いた結果です。本文のテーマである「経営改善」についての取り組みは、先ず職員の「気持ちを変える」ところからスタートしました。医療従事者に不足しがちな、コスト意識を現場に浸透させるため、5S活動やQC活動を推進、同時に、従業員にとって働き易い職場を作るため、育児介護休業制度の充実を初め、就業規則の改訂を実施しました。また、何より常勤医師はもちろん、非常勤当直医らに「救急を断らない」ことを院長名での指示として周知徹底し、積極的な救急医療の対応を病院全体で取り組みました。その結果、令和6年度前半までの救急応需率が平均45%程度であったものが、前述の方針を明示して以降、救急応需率が平均75%まで著増、これ

に伴い、入院稼働率もV字回復を達成しました。しかし、この策は、一時的な対応策でしかなく、恒久的な改善に繋げるには、職員一人一人がコスト意識を持ち、常に質の向上を図り、医療サービスに付加価値をつけ、患者満足度を上げるためのPDCAサイクルを回すことが肝要であると確信します。この様に書くと非常に難しく解釈されがちですが、具体的には、先ずコスト意識を持つための考え方として自分の家庭（財布）に置き換えて考えること。医療サービスの付加価値も、自分が患者になった時、どのような病院で、どのような医師や看護師に診てもらいたいかを考え、今足りないものを補うことが付加価値になります。

三現主義（現場・現実・現物）を徹底し、妥協なき決意の下で、QC的考えである「次工程はお客様」を浸透させることが、真の「経営改善」に至るものと考えます。

誌上シンポジウム総括 「経営改善に向けた対応」

兵庫県民間病院協会事務長会会長
(医社)健裕会 中谷病院副院長兼事務局長

播間 利光



今回で11回目となる誌上シンポジウムは、「経営改善に向けた対応」について事務長会5支部からそれぞれ5病院の発表をいただきました。東阪神支部、神戸支部、東播支部、西播支部の4病院がすでに運営されているなかでの経営改善、西阪神支部の1病院が新設病院での経営改善となっています。共通する背景は、医療業界の危機と病院経営の特殊性です。診療報酬制度下において物価高騰や設備更新費などの価格転嫁がかなわないなか、支出を把握し収入を増や

すための病床稼働率の向上、人材確保はもとより離職防止や組織力強化などの各種マネジメントの取り組みなど事例をあげて報告されています。4病院では、事務長視点での人材定着や組織強化など守りの経営改善と、病院長視点での救急を断らない攻めの経営改善、またコミュニティ参画による地域協働の構造的経営改善など、厳しい医療経営環境を生き抜くための具体的で価値のある知見が詰まっている内容となっています。さらに、地域包括医療病棟という最

新の診療報酬改定の武器をどのように経営戦略に落とし込んだか、タイムリーな報告も興味深いところです。新設の1病院は、新しい病院を一から立ち上げ、いかに効率的かつ一体感のある組織にするかという苦労、医療DXの推進やBPO（外部委託）の導入など、現代の病院経営における重要テーマが網羅された内容となっています。いずれにしても、現場の事務長の前向

きな取り組みに心から敬意を表したいと存じます。今回執筆いただいた5病院それぞれの取り組みには、運用上の様々なヒントが盛り込まれていますので、参考になるところを今後の病院経営に活かしていただければ幸いです。お忙しい中、ご執筆いただきました5病院にはこの場をお借りして、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

ビジネススクール

医療経営プログラム 入学生募集

病院経営の大学院プログラムにおいて日本トップクラスのクオリティ

医師、看護職、医療技術職、事務職などの経営管理職および候補者が対象。授業は、土日および平日夜間に大阪梅田キャンパスで実施し、2年間で**経営管理修士（専門職）**の学位が取得できます。教員は医療経営分野トップレベルの研究者と先進の実務家が集まり、理論と実践の統合を目指して病院経営のあるべき姿を体系的にレクチャーします。

プログラムの特徴

- ◎スクールモットー「Mastery for Service(奉仕のための練達)」の観点から医療経営を探究
- ◎理論と実践の統合を目指すカリキュラム。企業経営と共通の一般論から病院経営特有の理論、そして病院経営の実践論へと学びを深める
- ◎医療経営学、医療経済学、医療会計学などトップ研究者と、先進の実務家が教員として集結

厚労省教育訓練給付制度対象講座

2年間最大約110万円給付

入学試験日程

※看護・医療技術等の専門学校等卒業者は勤務経験による入学資格審査がございます。審査制度を利用される場合、お早めに研究科事務室にお問い合わせください。

募集日程		出願期間	試験日・試験内容	合格発表
2027年春学期 (4月)入学	第1次	2026/10/28(水)～11/4(水)	11/22(日) 面接・筆記試験	12/4(金)
	第2次	2027/1/13(水)～1/20(水)	2/13(土) 面接・筆記試験	2/19(金)

入試説明会

【日程】2026年9月20日(日)10時～ オンライン開催
 詳細はこちら <https://iba.kwansei.ac.jp/bs/admission/>

経営戦略講座「医療経営入門」で授業体験！

【日程】2026年9月2日(水)、9日(水)、16日(水)、30日(水) ※計4回
 18:30～21:30 オンライン開催
 【対象】医療機関の経営管理に興味がある方 【費用】22,000円
 詳細はこちら <https://iba.kwansei.ac.jp/bs/seminar/>

【問い合わせ】

**関西学院大学専門職大学院
経営戦略研究科事務室**

〒662-8501
 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1番155号
 TEL : 0798-54-6572
 E-mail: iba@kwansei.ac.jp



医療法人社団正名会
池田病院



事務部長
河上 敬二

～糖尿病診療の伝統を受け継ぎ、地域医療のさらなる充実を目指して～

池田病院は、阪急塚口駅北側に位置する地域密着型の医療機関として、長年にわたり地域住民の皆さまの健康を支えてまいりました。開設以来54年にわたり、糖尿病診療

を中心とした専門性の高い医療を提供し、日本糖尿病学会認定教育施設、日本肥満学会認定肥満症専門病院として、専門医による診療をはじめ、栄養指導や療養支援などを通じて、多くの患者さまの健康管理に携わっております。

糖尿病をはじめとする生活習慣病に対しては、予防から治療、継続的なフォローアップまで一貫した医療体制を整備し、患者さま一人ひとりの生活背景に寄り添ったきめ細やかな診療を実践してまいりました。

このたび池田病院は、2018年より計画を進めてまいりました新病院がようやく完成し、これまでの「糖尿病に特化した専門病院」から、より幅広い地域医療ニーズに応える病院へと新たな一歩を踏み出します。



外観

新病院では、眼科およびリハビリテーション機能を新設し、専門性と地域性を兼ね備えた医療体制を構築いたします。眼科では、糖尿病患者さまに多くみられる糖尿病網膜症をはじめとする眼疾患への対応を強化し、内科と眼科が密接に連携した診療を行います。

また、白内障手術や網膜硝子体手術、各種レーザー治療など高度な眼科医療にも対応し、地域の皆さまが安心して専門的な治療を受けられる環境を整えております。視力低下や失明につながる疾患の早期発見・早期治療に取り組み、患者さまのQOL（生活の質）の維持・向上を目指してまいります。



眼科手術室

さらにリハビリテーション部門では、高齢化社会を見据えた機能回復支援や在宅復帰支援を充実させます。入院後の身体機能の回復だけでなく、患者さまが住み慣れた地域で安心して生活が続けられるよう、多職種が連携した包括的なサポートを提供いたします。

急性期から慢性期、さらには在宅支援まで切れ目のない医療体制を整えることで、地域に根差した医療機関としての役割をさらに強化し、地域の皆さまに信頼される病院づくりを進めてまいります。



リハビリ室



職員休憩室

池田病院はこれからも、糖尿病医療で培ってきた専門性を基盤に、時代や地域ニーズの変化に柔軟に対応しながら、「安心して相談できる身近な病院」として、地域住民の皆さまの健康と暮らしを支え続けてまいります。



神戸

(公社) 神戸市民間病院協会 令和8年6月度 第2回理事会

日 時 令和8年6月11日(木)
15:00～16:00
場 所 神戸看護専門学校 8階会議室

理事総数14名 出席理事数11名
監事総数2名 出席監事数2名

出席役員

代表理事 (会長) 高橋玲比古(議事録作成者)
理 事 吉田寛、宮地千尋、西昂、吉田泰久、
中井正信、藤井正彦、横井峰人、
笹野哲郎、大西安代、中野市雄
監 事 西村元延、飯塚敏勝

出席参与・参事

参 与 山本正之、藤久和、具英成
参 事 横内幸男、阿児良典、川田一途、
高田郁子、森嶋正美

上記出席者のうち、理事 宮地千尋、藤井正彦、
笹野哲郎、参事 川田一途はWEB会議システ
ムを用いて出席した。

上記のとおり出席があったので、定款第33条
の規定により会長 高橋玲比古が議長となり、
審議に先立ち、WEB会議システムにより、出
席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見
表明が互いにできる状態となっていることを確
認した上で、開会を宣し議事に入った。

報告事項1 令和8年4・5月度管理部門並び に看護専門学校等の収支報告

議長の指名により、事務局長から、4月度
及び5月度の管理部門並びに看護専門学校等
の収支について報告がなされた。

報告事項2 学校報告

議長の指名により、学校長から、下記の報
告がなされた。

(1) 学生の状況

1年生：

5月14日 芸術鑑賞

ナイチンゲールに関連したミュージカ
ルを観劇

アンケート結果：

満足度の高い評価であった。「ナイ
チンゲールのように人に寄り添えるよ
うになりたい」「看護の魅力をさらに
感じた」「今後、学習頑張りたい」と
前向きな意見があった。

2年生：

7月の「あじさい祭」に際し、地域への
貢献度を考えた上での実施の企画を委員
会中心に準備を進めている。

3年生：

5月12日～7月31日 専門分野実習

実習先でコロナウイルス感染児との
接触があったが感染することなく実習
継続。

(2) 卒業生カムバックデイ・3年生との交流 会開催

6月1日(月)

就職先での近況報告を行い就職後の様子
を知ることができた。就業継続に関し悩ん
だという卒業生もいたが、今は乗り切り頑
張っているなどお互いに励まし合ってい
た。3年生との交流会では、在校生は先輩
から職場の状況など熱心に聞いていた。

エ リ ア 情 報

(3) 学校自己点検・学校評価に関する学校関係者委員会

4月23日 8階会議室にて、会長・副会長出席のもと実施

令和7年度学校自己点検の調査結果

9領域、50評価項目の4段階評価結果
平均2.78点（昨年2.8）

教育課程・教育活動に関する事項、入学・学生確保に関する事項と卒業・就職・進学に関する事項の評点が昨年度と比べわずかではあるが下がった。国家試験の合格率の低下、それに伴う就職者の減少、受験生の減少が評点低下の要因と捉え、その内容を中心に今後の対策を含め、現在の学生の状況も合わせて意見交換を行った。

6月に、学校自己点検結果及び学校関係者委員会の会議録、その他学校に関する情報についてホームページにて情報開示を行った。

(4) 学生募集に関する事

学校見学会：3月以降、10月まで毎月1回
土曜日に開催

次回6月20日開催予定

参加者人数：4月・5月は昨年より減少
オープンキャンパス：

8月5日(水)・8月6日(木)に開催予定
現在申込受付中

(5) 今後の予定

講師会議・交流会：

6月19日(金) 17:15～

ANAクラウンプラザホテル

報告事項3 事務長部会の取組み報告

報告事項4 医療職者研修会について

報告事項5 改正就業規則の労働基準監督署への届出について

議長の指名により、事務局長から、報告事項3は事務長部会の第1回研修会（6月25日）に

ついて、報告事項4は令和8年度医療職者研修会プログラムについて、報告事項5は4月理事会にて承認された改正就業規則を5月22日付で神戸東労働基準監督署に提出した旨、一括して説明がなされた。

議題1 令和8・9年度役員及び役員の業務分担について

議長の指名により、事務局長から令和8・9年度役員について、理事・監事・参与の選任経過、正副会長の選出経過、及び参事の選任案について説明がなされた。併せて役員の業務分担案及び神戸市関係の委員推薦案について説明が行われた。

質疑において、具参与より「副会長の業務分担について、責任を明確にすべきである」との意見が出され、これについては今後検討することとした。

議長が「副会長の業務分担」を除く本案を議場に諮ったところ、全員異議なく、原案どおり承認された。

議題2 定時社員総会の会計報告について

議長の指名により、事務局長から、5月28日に開催された定時社員総会の会計について報告がなされた。

議題3 会長交代の挨拶状の送付について

議長の指名により、事務局長から、西前会長から高橋新会長への交代に伴う関係先への挨拶状案及びその送付先案について説明がなされた。

議長が本案を議場に諮ったところ、全員異議なく、原案どおり承認された。

議題4 看護専門学校学生確保プロジェクトチームの設置について

議長の指名により、事務局長から、プロジェクトチームの設置目的、構成メンバー、検討事項及び進め方・スケジュールについて説明がなされた。続けて議長より、構成メンバー

エ リ ア 情 報

の選定については正副会長に一任されたい旨提案がなされた。

議長がこれらを含めた本案を議場に諮ったところ、全員異議なく、原案どおり承認された。

議題5 西校舎LED整備等に係る兵庫県補助金「私立学校等緊急修繕等支援事業」の活用について

議長の指名により、事務局長から、西校舎においてLED化が未整備となっている実習室、会議室、階段・廊下等のLED化、及び実習器具・備品等の購入について、兵庫県の補助金を活用して進めたい旨の説明がなされた。

議長が本案を議場に諮ったところ、全員異議なく、原案どおり承認された。

議題6 灘区地域包括支援センター運営協議会委員の推薦について

議長の指名により、事務局長から、「灘区地域包括支援センター運営協議会（神戸市福祉局介護保険課所管）」委員について、東神戸病院の内村ひとみ総看護師長を推薦する旨説明した。

議長が本案を議場に諮ったところ、全員異議なく、原案どおり承認された。

議題7 神戸市健康局からのアンケート協力依頼について

議長の指名により、事務局長から、神戸市健康局地域医療課より依頼のあった「看護師の確保等に関する実態調査」について、その趣旨及び内容が説明された。併せて、本調査に協力し、事務局から会員病院へアンケートを送付したい旨の説明がなされた。

議長が本案を議場に諮ったところ、全員異議なく、原案どおり承認された。

議題8 地域医療介護総合確保基金（医療分）に係る令和9年度事業提案の募集について

議長の指名により、事務局長から、兵庫県保健医療部からの「地域医療介護総合確保基金（医療分）」に係る令和9年度事業提案の募集内容について説明がなされた。

議題9 その他

- ・第12回地域包括ケア推進病棟研究大会
- ・医療機関向けサイバーセキュリティワークショップ及び新型スマートクッション「NEO X」の展示
- ・7月理事会
7月9日(木) 15:00～16:00
※合同納涼会
18:00～ ホテルオークラ神戸

(一社)神戸市第二次救急病院協議会 第1回理事会議事録

日 時 令和8年6月11日(木)
16:00～16:40

場 所 神戸看護専門学校 8階 会議室
出席役員 理事 13名 (Web出席1名含む)
監事 1名 (Web出席1名)
実行委員 8名 (Web出席1名含む)

議 長 高橋 会長

議 題

- 1 神戸市消防局からの依頼について
釜戸事務局長から、先般、神戸市消防局より、各二次救急医療機関と各消防局救急隊との業務連携の円滑化を図る為、各医療機関からの救急情報変更等の連絡は消防局（消防管制室）への電話連絡ではなくMefisシステムを利用した救急隊向けの医療機関コメント欄

への入力によって実施して欲しい旨の依頼があったとした。続いて、神戸市消防局から別紙依頼文書により消防局内の現状と医療機関コメント欄利用のメリット解説があった。その後、高橋会長が理事会に諮ったところ異議なく承認された。そこで明日、事務局より会員病院へ一斉メールにて通知して実施する事となった。

2 神戸マラソン2026開催協力について

神戸市マラソン実行委員会より事務局担当者が来訪され前回開催された「神戸マラソン2025」の活動結果を簡潔に報告され二次救急協議会への謝辞を述べられた後、今年度開催予定となっている「神戸マラソン2026」の競技内容紹介に引き続き、大会開催中の医事・救護体制について、改めて協力支援を依頼された。これを受け高橋会長が理事会に諮ったところ異議なく承認された。

3 令和8年度県医師会救急医療業務等功労者表彰の推薦について

釜戸事務局長より、例年開催される兵庫県医師会主催による救急医療等功労者表彰の協議会への推薦依頼について報告があった。それによると、例年慣例により前年度救急搬送件数や救急搬送受入比率等を検討事項にして表彰病院（救急功労者）を決定し推薦しているという事であった。今年度も高橋会長が理事会にて審議依頼したところ例年通り慎重な審議がなされ須磨区の北須磨病院を推薦病院とする事となった。今後は神戸市医師会より依頼文書が届き次第、事務局より当該病院に通知案内を出し、推薦者の選定を依頼しその結果を神戸医師会を通じ兵庫県医師会へ提出する事になった。

4 救急車搬送患者未収金調査の結果について（令和7年4月～12月）

釜戸事務局長より標記未収金調査の報告が

あった。それによると、令和7年4月～12月は合計で約1750万円となっており、9か月での集計としては通常年度同様となっているとした。この経過で推移すれば年度末には総額約2300万円程度になる事が予測されたとした。これを受け高橋会長が理事会に諮ったところ異議なく承認された。

東阪神

事務長会定例会 議事録

日 時 令和8年6月19日(金) 15:00～
場 所 小田南生涯学習プラザ 小会議室1
出 席 西宮、宮宗、伊藤、河上、榎村、野村、井内、植木、石橋、畑林、堀、齋藤、野崎、徳岡、小山、鈴木、丸中、辻井、川原 計19名

議 題

- 1 院長会報告について
6月17日(水) 17:00開始
事業報告、収支決算報告、今年度事業計画、予算を審議し問題なく終了
出席病院 25/35病院 委任状10病院
- 2 兵庫県民間病院協会 事務長会・看護部長会合同幹事会報告について
6月12日(金)
神戸三宮コンベンションセンター
・随筆、病院かわら版の持ち回り順を確認
・兵庫県研究発表会
8月1日(土) 神戸市産業復興センター
・近畿病院団体連合会事務長会
兵庫県担当で開催 9月3日(木)

エ リ ア 情 報

- 3 令和8年度診療報酬改定情報について
 - ・看護必要度 救急搬送件数の集計期間について
 - ・身体拘束への新基準について 多くの病院が基準達成困難
 - ・ベースアップ評価料について
- 4 医療物資確保について
 - ・全く入荷出来ない、という事は無いが業者からの値上げ通知が続いている
 - ・AI市場の活性化によりPC関係のパーツが値上げ、品薄
- 5 研修旅行について
 - ・現在参加13名 7月24日(金)・25日(土)開催
- 6 兵庫県民間病院協会 事務長会・看護部長会合同研修会について
 - ・研修会内容、タイムスケジュール、役割分担等打合せ
- 7 その他
 - ・協会けんぽ 特定保健指導 不適切事例での調査
 - ・兵庫県人事委員会 情報提供協力依頼があった

次回開催

日時 令和8年7月17日(金) 15:00～

場所 池田病院

西阪神

2026年度 事務長研修会 議事録

開催日時 令和8年6月11日(木)

15:30～16:40

開催場所 西宮市医師会 会議室

出席者 31名のうち19名出席

議長 池崎会長
書記 園田会報編集委員

事務長会に先立ち、株式会社メディカル・プリンシプル社様より「将来を見据えた医師採用」の研修会を実施

議 案

議案1 医事部会より報告（奥屋事務長）

- ・5月20日(木)に開催された医事部会について、議題の報告がなされた。

議案2 院長会報告（國見副会長）

- ・6月1日(月)に開催された院長会総会について、報告がなされた。

議案3 その他

- ・笹生病院 松浦事務長紹介
- ・事務系管理職など採用困難職種の採用状況や手法についての情報交換（池崎会長）
学生等については、病院での事務系の仕事についてのイメージがないため、募集をかけても応募がない。

病院で事務系の専門学校より毎年実習生を数名受け入れ、仕事内容を理解してもらい採用に繋げている病院もあり。

他府県では、関連協会にて就職説明会を開催しているケースもある。

等の意見あり。

- ・次回事務長研修会終了後の懇親会開催について：藤田事務長

日時・場所について意見交換

◎次回の事務長研修会の予定

日 時 令和8年7月16日(木) 15:30～

場 所 西宮医師会館 会議室

西 播

令和8年度 定時総会・特別講演会・医療連携交流会

日 時 令和8年6月11日(木)
場 所 ホテルモントレ姫路

■定時総会

総会員数46病院のうち、出席18病院、委任状24病院(計42病院)により定足数を満たし、本総会は有効に成立いたしました。

【議事】

令和7年度 事業報告

令和7年度 会計報告

上記の議案が審議され、いずれも原案通り満場一致で承認されました。

■特別講演会

清元秀泰姫路市長、牛尾光宏姫路市医監をはじめとする多くのご来賓をお迎えし、特別講演会を開催いたしました。

講師に厚生労働省医政局地域医療計画課長の西嶋康浩氏を招聘し、「新たな地域医療構想の最新動向について」と題して、今後の医療体制や新構想の考え方についてご解説をいただきました。

■医療連携交流会

続く交流会には31病院・116名が出席。来賓や公的病院の皆様からご挨拶を頂戴するとともに、各病院の地域連携室職員を中心とした活発な情報交換が行われ、西播地区における顔の見える連携をさらに強化する大変有意義な場となりました。

協会だより

令和8年	7月	15日(水)	理事会(兵庫県病院協会と合同開催)
		17日(金)	令和8年度近畿病院団体連合会第1回委員会
		27日(月)	第3回都道府県病院協会連絡協議会
〔予定〕			
令和8年	8月	1日(土)	第21回研究発表会
		5日(水)	感染症対策連携協議会「第1回予防計画部会」
		10日(月)～14日(金)	兵庫県医師会館の休館に伴う事務局業務停止
		19日(水)	第40回兵庫県医療審議会 地域医療対策部会
令和8年	9月	3日(木)	令和8年度第1回近畿病院団体連合会事務長会
		17日(木)	理事会

研修会・講演会のご案内

東阪神支部主催
第44回 事務長会・看護部長会合同研修会

連日の厳しい暑さに見舞われる中、皆様方におかれましてはご健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、今回の合同研修会は医療を取り巻く環境の変化に対応するための知識共有と情報交換を目的として開催させていただきます。

現在、医療を取り巻く環境は少子高齢化による医療需要の変化、医療人材不足への対応、医療安全体制の高度化、医療DXの推進など大きな転換期を迎えています。こうした状況の中、医療機関には限られた人的資源のもとでより安全で質の高い医療を持続的に提供していくことが求められています。

そのため、医療機関においては業務効率化や医療安全の向上、医療従事者の負担軽減を実現する先進的な医療機器・関連サービスの導入が重要な課題となっています。

しかし、日々の業務に追われる医療現場では最新の製品や技術に直接触れ、比較・検討する機会が十分に確保できていないのが実情です。そこで本合同研修会では事務長および看護部長が多数参加する機会を活用し、最新の医療機器（ロボット、MRを用いたりハビリ器具、AI検査機器等）や関連サービスを実際に体験しながら理解を深める場として、特別展示会を開催することといたしました。

ぜひ奮ってご参加ください。

記

- 日 時 令和8年10月24日(土) 14:00 開会 (13:30 受付開始)
研修会 14:20 ~
展示会 「体験（見て・触れて・考える）する医療DX展
ー現場を変える技術とアイデアー」
体験、展示型ブース：約20社
講演会 「iPS細胞と挑戦者」（仮）
講師：京都大学 iPS細胞研究所「CiRA（サイラ）」所長
江藤浩之教授
懇親会 17:00 ~
- 場 所 アルカイクホール・オクト、都ホテル尼崎（尼崎市昭和通2-7-16）
（電話 06-6487-0800）
- 会 費 研修会・懇親会 17,000円（宿泊を伴う場合は、別途ご相談ください）
※一般職員が講演のみの参加の場合は無料
※事務(部)長・看護部長は展示会および講演会のみの参加はできません。
- 申込開始 8月末頃
- 申込方法 兵庫県民間病院協会HP申込フォームからお申し込みください。

お知らせ

事務局休業のお知らせ

来る8月10日(月)～14日(金)の5日間は、事務局が所在する兵庫県医師会館が休館となることに伴い、事務局の業務を休ませていただきますのでご了承ください。

(一社)兵庫県民間病院協会
兵庫県病院協同組合
兵庫県病院企業年金基金

兵庫県病院協同組合の皆様へ

現在 個別取扱で **アフラックのがん保険** に
ご加入中の方は集団取扱に変更するだけで
保険料が割安になります

簡単な手続きで変更できます

保障内容の変更はありません

アフラック募集代理店(株)エイフ が、兵庫県病院協同組合の皆様の保険を担当しております。

まずは、お気軽に(株)エイフへご連絡ください。

こちらの、二次元コードからご連絡いただけます。



アフラック募集代理店

株式会社エイフ

【電話】0120-65-0009

【営業時間】平日9:00～18:00/土曜9:00～17:00/日曜定休

【住所】〒662-0832 兵庫県西宮市甲風園1-5-16

〈引受保険会社〉アフラック神戸総合支社 〒650-0034 神戸市中央区京町80クリエイト神戸13F TEL078-391-8893

Aflac

(一社)兵庫県全日本病院協会だより

一般社団法人 兵庫県全日本病院協会

令和8年度 第14回定時総会議事録(速報)

- 1 開催日時 令和8年6月18日(木)
14:35～14:50
- 2 開催場所 ラ・スイート神戸
オーシャンズガーデン
- 3 総会員の数 126名
- 4 総会員の議決権の数 126個
- 5 出席した会員の数 89名
(委任状出席0名、書面議決66名を含む)
- 6 出席した会員の議決権の数 89個
出席率 70.6%
- 7 出席した役員
理事 宮地千尋、同 吉田寛、同 鄭正秀、
同 橋本創、同 吉田純一、同 大江与喜子、
同 中井正信、同 大石麻利子、同 古城資久
監事 大隈健英、同 東靖人
- 8 議事録作成者
会長 宮地千尋、副会長 吉田寛、
監事 大隈健英
- 9 議事の経過の要領及びその結果
(開催のことば)
吉田副会長より、令和8年度一般社団法人
兵庫県全日本病院協会第14回定時総会の開会
宣言が行われた。

(点呼)
中村事務局長より出席者数の確認報告があ
り、本日の定時総会が定款第18条第1項の規

定により、成立していることが報告された。

(会長あいさつ)

宮地会長より、日頃の協会運営に対する
会員各位の協力に謝意が述べられた。また、
診療報酬改定はプラス改定となったものの、
物価高騰や人材確保の課題など、医療機関
を取り巻く環境は依然として厳しい状況に
あることが示された。その上で、会員相互
の連携を深めるとともに、診療報酬の適正
な見直しに向けた取り組みを進めていく考
えが述べられた。

(議長選出)

吉田副会長より、議長選出について、宮地
会長を選出したい旨議場に諮り、全員異議な
く承認された。

宮地会長が議長就任のあいさつを行い、以
後、宮地会長が議事を進行する。

(議事録署名人の選出)

議長より、定款第21条第2項の規定により、
本日の議事録署名人に医療法人寛仁会吉田
アーデント病院理事長・院長の吉田寛先生及
び医療法人朗源会おおくま病院理事長の大隈
健英先生を指名し選出したい旨を議場に諮
り、異議なく承認された。

(事業報告)

報告事項① 令和7年度事業報告の件

中村事務局長より、令和7年度事業報告書に基づき、定時総会及び理事会の開催状況並びに、研究発表会をはじめ、医療政策、診療報酬に関する研修会や講演会の開催状況等が報告された。

次に、当協会の会員数が本年3月末現在126人である旨報告された。

議長より、以上の報告に対して議場に諮ったところ、全員異議なく了承された。

報告事項② 令和8年度事業計画及び収支予算報告の件

中村事務局長より、令和8年度事業計画に基づき、定時総会及び理事会の開催、並びに研究発表会をはじめ経営関係、診療報酬に関する研修会や講演会の開催等、諸事業を計画的に推進していくことが報告された。

次に、これらの事業を実施していくための収支予算について、令和8年度収支予算書により、報告された。

議長より、以上の報告に対して議場に諮ったところ、全員異議なく了承された。

(議案審議)

第1号議案「令和7年度計算書類について承認を求める件」

中村事務局長より、令和7年度貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録に基づき、令和7年度収支決算状況が説明された。

引き続き、大隈監事より、監事を代表して「会計帳簿及び関係書類により審査した結果、特に問題はなく正確かつ適正に処理されていることを認めた。」との監査結果が報告された。

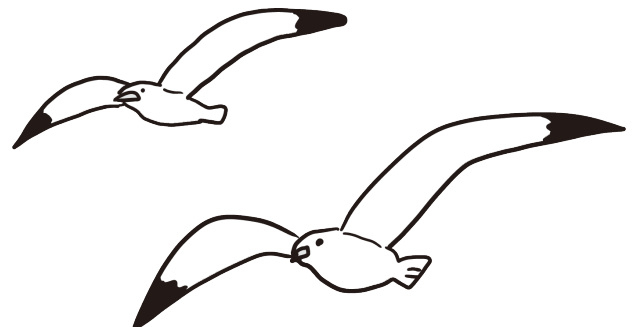
議長より、本案について議場に諮ったところ、全員異議なく承認可決された。

(審議終了)

議長より、以上で本日の定時総会に提案された議事の審議がすべて終了したこと、並びに出席者の協力により円滑な議事進行ができたことに対する謝辞が述べられた。

(閉会のあいさつ)

鄭正英副会長より、閉会のあいさつに続き、令和8年度一般社団法人兵庫県全日本病院協会第14回定時総会の閉会が宣言され、全日程を終了した。



公益社団法人 全日本病院協会

2026 年度 第3回常任理事会

日 時 2026 年 6 月 6 日(土) 13:00 ~ 16:00
場 所 全日本病院協会 大会議室
出席者 定数 26 名、出席 24 名

議 事 要 旨 (抜 粋)

【主な報告事項】

- AIによるサイバー攻撃に関する情報共有と医療機関等におけるサイバーセキュリティ対策に関する厚生労働省との意見交換について (2026.5.22)

神野会長より下記の報告がされた。

- ・ミュトス (Claude Mythos) に関し対策パッケージ (Project YATA-Shield) 及び関係機関への注意喚起について報告が行われた。
- ・基幹インフラ制度への医療分野の追加について説明が行われた。
- ・医療機関等におけるサイバーセキュリティに関する取組みについて説明が行われた。

また、医療機関等において改めて確認いただきたい事項が提示され、医療機関に対して、サイバーセキュリティへの対応が要請された。

●病院のあり方委員会 2040年に向けた病院生き残りに関する検討 中間報告について

横倉常任理事より、第1回理事会 (2026.5.16) で報告した「2040年に向けた病院生き残りに関する検討」中間報告からの修正点について説明が行われた。中間報告については、6月20日開催の定時総会においても説明することが確認された。

●夏期研修会 (愛媛県) について

池井常任理事より、夏期研修会を下記のとおり開催することが報告された。

【概要】

日 時 2026年 8 月30日(日)
9:00 ~ 12:00

会 場 道後温泉ふなや
本館3階「光輪の間」

テーマ 「白鷺が癒した湯に、医療の未来を重ねて―道後温泉から医療体制の継続性を考える」

参加費 医師 11,000円 (税込)
その他の職種 3,300円 (税込)

●各委員会報告について

- ・医療保険・診療報酬委員会委員長の津留常任理事より、2026年度医師事務作業補助者研修 e-ラーニングの参加費について、他団体との価格差や経費削減効果等を踏まえ、現行の参加費に据え置くことが報告された。
- ・人間ドック委員会副委員長の馬場常任理事より、前年度に引き続き、集合契約 A における契約単価の引上げを要望することが報告された。
- ・個人情報保護担当委員会委員長の細川常任理事より、個人情報管理・担当責任者研修会ア

ドバンストコースの参加費を改定することが報告された。

●四病協報告について

須田常任理事より、2026年5月21日に「令和9年度予算概算要求に関する要望」を上野厚生労働大臣に提出したことが報告された。

●厚生労働省、日医、各団体報告について

- ・井上常任理事より、一般社団法人日本専門医機構理事会（第24回）について報告された。

【討議事項】

●看護師の養成について

神野会長より、2026年5月25日に開催された「第2回医療関係職種の安定的な養成・確保に関する検討会について」の説明が行われた。

資料の中で、◇地域の看護養成所が経営不振で廃校すると、その地域で働く看護職等が居なくなり、国として何とかしなければいけない、◇必要な人員を確保することは地域医療構想とも非常に関係がある、◇自治体における医療関係者職種の取り組み例では、定員が少なく経営が苦しい看護学校を都会の看護学校のサテライトとして存続する例もあり、厚労省にもこの形のガイドライン、仕組みを作り、早急に全国に発信する、◇医療関係職種の養成・確保体制は、なり手と教育の問題の両方に取り組み、養成の問題は、学校の再編・統合、サテライトなどに取り組まなければいけない—等と主張されていることが報告された。

上記、報告を受け下記のような意見等が挙がった。

- ・地元の都市医師会の看護学校では、授業のアーカイブ数を増やし、教員の数が減っても運営が可能となるよう努力をしているが、教員のなり手も少なくなっている。そのため、授業のアーカイブ化を更に進めていきたいと考えている。
- ・地元の進学校の生徒は大学志向が強い。医師

会立の養成校には職業高校などや郡部の高校から来るので、病院が奨学金を支給するなどしなければ学生が集まらない。

- ・福岡県では、EPAで来ていた外国人看護師で、その後帰国した生徒を呼び戻し、看護学校に入学してもらい准看護師を養成するという取り組みを医療介護確保基金を活用して、県と県医師会で実施している。
- ・若者が減っていく中で養成数が増える見込みはたたない。それよりも診療報酬等における人員配置基準の効率化を早急に進めていただくよう強く主張してほしい。
- ・北欧では医療に係る有資格者の兼任を認めている例もある。労働力人口が減る中では、そうしたことも考えていくべきではないか。

●控除対象外消費税問題について

神野会長より、2026年5月9日に開催された「医療と消費税に関するシンポジウム」について報告が行われた後、昨年8月21日に厚生労働省に提出した「令和8年度税制改正要望の重要事項」の記載内容を巡って討議が行われた。

令和8年度税制改正要望では、消費税に関して、社会保険診療報酬等の非課税に伴う控除対象外消費税問題の抜本的な解決として、「社会保険診療報酬および介護報酬の非課税を見直し、診療所においては非課税制度のまま診療報酬上の補てんを継続しつつ、病院においては軽減税率による課税取引に改められたい」と記載されていることについて問題提起し、記載内容の見直しの是非について意見交換が行われた。

- ・政府の社会保障国民会議では、食料品をゼロ税率にするのか、税率1%にするのかなどの議論をしているが、この機会に医療について原則課税とすることを是非訴えていただきたい。
- ・消費税問題に関して医療関係団体の意見を一本化してほしいというのが、政府や国会議員から以前より言われていることである。病院団体だけで課税を主張しても、進められない

と言われてしまう。

- 中医協の資料で、消費税については、診療所も益税ではなく損税になっているというデータが示されている。診療所が益税となっていないのであれば、医療団体として原則課税で一本化するチャンスではないか。
- 医療への消費税課税は徹底的に議論する必要があるが、病院団体としては課税への一本化

にこだわるべきではないか。

討議を受けて神野会長は、「本日結論を出すのは難しいものの、世の中の状況、政府において食料品の消費税について議論が行われているところでもあり、いま医療に係る消費税問題を前に進めなければ大変なことになる」と述べ、引き続き議論することにしたいと締め括った。

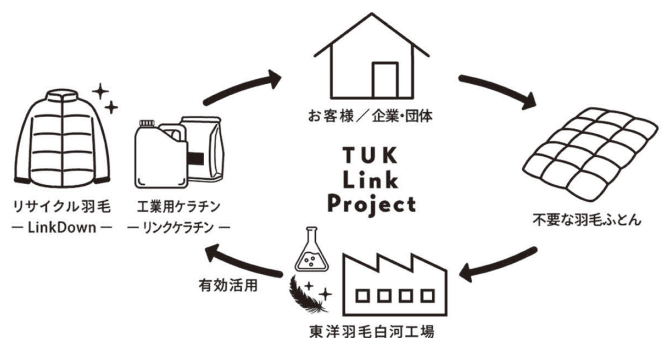
不要な羽毛ふとんはありませんか？

東洋羽毛が
無料でお引取りします

- お近くの営業所または二次元コードからお申込みください。
- 引取り可能なふとんの種類は羽毛ふとん(ダウン率50%以上)です。ただし、東洋羽毛の羽根ふとん、羽根まくら(ダウン率50%未満)は引取り可能です。羽毛以外のふとん類や、リサイクル羽毛として活用できない物は引取りできません。



引取り詳細



東洋羽毛関西販売株式会社

〒657-0864 兵庫県神戸市灘区新在家南町3-1-14

神戸営業所

0120-360-420



兵庫県病院協同組合だより



金額単位：円

6 月 度 事 業 報 告	種 目	件 数	取扱高	前年同月比	種 目	取扱高	前年同月比
	1. 融 資	0 病院			8. 保 険 (手数料収入)	366,453	22,266
	2. 寝 具	22 病院	6,086,661	△ 746,066	9. 飲 料 (手数料収入)	4,297	△ 1,039
	3. 白 衣	19 病院	6,887,156	△ 946,189	10. そ の 他 (手数料収入)		
	4. 患 者 衣	7 病院	588,032	△ 124,713	11. 参 加 料		
	5. パ ン	0 病院			12. 医 療 資 材 売 上	315,920	315,920
	6. 牛 乳	1 病院	22,793	△ 5,798			
	7. 防 虫	0 病院					

兵庫県病院協同組合から商品展示会のお知らせ

私たちは、「共同事業によって経済的に弱い立場に立たざるを得ない民間病院に公正で自主的な経済活動の機会を確保し、その経済的地位の向上を図る」という活動方針に従い、組合活動の活性化と組合病院の経済的支援に努めております。

この度、兵庫県全日本病院協会、兵庫県民間病院協会と共催で「第21回研究発表会」を開催いたしますが、これに合わせて、医療環境を改善する様々な製品、サービス等を研究発表会参加者にPRできるよう、隣接の会議室で商品展示会を当組合主催で開催いたします。

是非ともお立ち寄りくださいますようお願い申し上げます。

【商品展示会】

日 時 令和8年8月1日(土)
13:00～16:30 (終了予定)
場 所 神戸市産業振興センター
9階 902・903会議室

出展企業（展示内容）

オーミケンシ株式会社
(卓上再来受付自動精算機・患者呼出システム)
株式会社オプテージ
(電子カルテシステム、医療情報システムソリューション)
日本事務器株式会社
(電子カルテシステム・健診システム)
コスモスシステム株式会社
(医療機器管理システム)
株式会社ヒューマンスピリッツ
(ランサムウェアやウイルス等のセキュリティサービス)
ワタキューセイモア株式会社
(医療用マットレス・ユニホーム)
株式会社メディカ・ライン
(HARNEY & SONS紅茶試飲コーナー)

☆同会館901会議室、904・905会議室及びレセプションルーム1001・1002の3会場で研究発表会が同時開催されます。

兵庫県病院企業年金基金だより

兵庫県病院企業年金基金資産別運用状況一覧表（2026年4月～2026年6月）

収益率計算方法：修正ディーツ法
 総合口6資産分解：分解する

ファンド名	速 確 区 分	国内債券			国内株式			外国債券			外国株式			キャッシュ等 (短期資金)			資産全体			資産全体		
		時間加重 時価総額 (構成比)	金額加重 時価総額 (構成比)	金額加重 時価総額 (構成比)	時間加重 時価総額 (構成比)	金額加重 時価総額 (構成比)	時間加重 時価総額 (構成比)	金額加重 時価総額 (構成比)	時間加重 時価総額 (構成比)	金額加重 時価総額 (構成比)	時間加重 時価総額 (構成比)	金額加重 時価総額 (構成比)	時間加重 時価総額 (構成比)	金額加重 時価総額 (構成比)	時間加重 時価総額 (構成比)	金額加重 時価総額 (構成比)	時間加重 時価総額 (構成比)	金額加重 時価総額 (構成比)	時間加重 時価総額 (構成比)	金額加重 時価総額 (構成比)	時間加重 時価総額 (構成比)	金額加重 時価総額 (構成比)
ベンチマーク	—	-1.15%	—	—	14.40%	—	—	3.30%	—	—	16.34%	—	—	0.18%	—	—	—	—	—	—	—	—
総合計	確	-0.77%	—	—	14.32%	—	—	3.31%	—	—	16.38%	—	—	0.19%	—	—	2.45%	—	3.22%	—	3.22%	—
		4,846,908,701	—	—	918,993,773	—	—	851,993,610	—	—	927,489,527	—	—	325,959,616	—	—	1,452,974,615	—	9,324,319,842	—	9,324,319,842	—
		51.98%	—	—	9.86%	—	—	9.14%	—	—	9.95%	—	—	3.50%	—	—	15.58%	—	100.00%	—	100.00%	—
みずほ信託銀行合計	確	-1.17%	—	—	14.27%	—	—	3.30%	—	—	16.35%	—	—	0.18%	—	—	2.56%	—	3.10%	—	3.10%	—
		3,033,043,266	—	—	614,833,968	—	—	563,994,750	—	—	612,136,710	—	—	262,869,994	—	—	1,385,256,848	—	6,472,135,536	—	6,472,135,536	—
		46.86%	—	—	9.50%	—	—	8.71%	—	—	9.46%	—	—	4.06%	—	—	21.40%	—	100.00%	—	100.00%	—
みずほ信託銀行 バランス	確	-1.17%	—	—	14.27%	—	—	3.30%	—	—	16.35%	—	—	0.18%	—	—	—	—	3.24%	—	3.24%	—
		3,033,043,266	—	—	614,833,968	—	—	563,994,750	—	—	612,136,710	—	—	262,860,904	—	—	—	—	5,086,869,598	—	5,086,869,598	—
		59.62%	—	—	12.09%	—	—	11.09%	—	—	12.03%	—	—	5.17%	—	—	—	—	100.00%	—	100.00%	—
みずほ債券 S A	確	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.18%	—	—	0.40%	—	0.40%	—	0.40%	—
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9,090	—	—	645,087,038	—	645,096,128	—	645,096,128	—
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.00%	—	—	100.00%	—	100.00%	—	100.00%	—
みずほフアロン	確	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.52%	—	4.52%	—	4.52%	—
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	740,169,810	—	740,169,810	—	740,169,810	—
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.00%	—	100.00%	—	100.00%	—
三井住友信託銀行 バランス	確	-1.15%	—	—	14.48%	—	—	3.32%	—	—	16.49%	—	—	0.00%	—	—	0.18%	—	3.25%	—	3.25%	—
		806,913,496	—	—	157,523,700	—	—	149,667,156	—	—	163,172,880	—	—	0	—	—	67,717,767	—	1,344,994,999	—	1,344,994,999	—
		59.99%	—	—	11.71%	—	—	11.13%	—	—	12.13%	—	—	0.00%	—	—	5.03%	—	100.00%	—	100.00%	—
三菱UFJ信託銀行バ ランス	確	-1.15%	—	—	14.38%	—	—	3.31%	—	—	16.40%	—	—	0.20%	—	—	—	—	3.20%	—	3.20%	—
		743,477,628	—	—	146,636,105	—	—	138,331,704	—	—	152,179,937	—	—	62,478,271	—	—	—	—	1,243,103,645	—	1,243,103,645	—
		59.81%	—	—	11.80%	—	—	11.13%	—	—	12.24%	—	—	5.03%	—	—	—	—	100.00%	—	100.00%	—
りそなマルチ	確	6.44%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.18%	—	—	—	6.42%	—	6.42%	—	—
		263,474,311	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	611,351	—	—	—	264,085,662	—	264,085,662	—	—
		99.77%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.23%	—	—	—	100.00%	—	100.00%	—	2.83%

注) 「ファンド名」-「ベンチマーク」は、ファンド「総合計」のベンチマークの値を表示。

兵庫県病院企業年金基金時価増減一覧表（2026年4月～2026年6月）

収益率計算方法

：修正デイツ法

金額単位：円

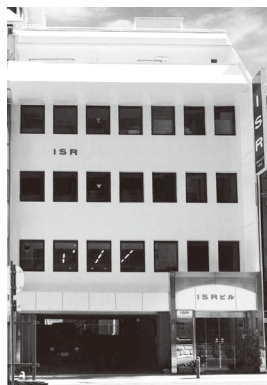
ファンド名	速確 区分	2026年3月末 時価総額	2026年6月末 時価総額	増減額	増減額			時間加重 収益率	複合ベンチ マーク騰落率
					掛金等	給付等	収益		
総合計	確	9,093,302,119	9,324,319,842	231,017,723	110,329,792	170,837,636	291,525,567	3.22%	—
みずほ信託合計	確	6,337,856,006	6,472,135,536	134,279,530	110,329,792	170,837,636	194,787,374	3.10%	—
みずほ信託バランス	確	4,987,162,121	5,086,869,598	99,707,477	110,329,792	170,837,636	160,215,321	3.24%	—
みずほ債券SA	確	642,520,020	645,096,128	2,576,108	0	0	2,576,108	0.40%	—
みずほフアロン	確	708,173,865	740,169,810	31,995,945	0	0	31,995,945	4.52%	—
三井住友信託バランス	確	1,302,694,073	1,344,994,999	42,300,926	0	0	42,300,926	3.25%	—
三菱UFJ信託バランス	確	1,204,608,590	1,243,103,645	38,495,055	0	0	38,495,055	3.20%	—
りそなマルチ	確	248,143,450	264,085,662	15,942,212	0	0	15,942,212	6.42%	—

【月末マーケット指数】

	NOMURA-BPI		日興CB		TOPIX		MSCI-KOKUSAI	コル有担保	日経平均(円)	10年国債 為替(円/ドル)	米国NYダウ(ドル)	米10年国債 為替(円/ユーロ)
	330.411	—	—	—	配当込み	FTSE世界国債						
2026年3月末	330.411	—	—	—	6,229.53	672.67	10,908.206	—	51,063.72	2.345	46,341.51	4.30
2026年6月末	326.604	—	—	—	7,126.60	694.84	12,690.236	—	70,062.32	2.670	52,319.20	4.44
年度末比上年率幅	-1.15%	—	—	—	14.40%	3.30%	16.34%	—	37.21%	—	12.90%	—
												1.37%

ISR

Intelligent Social Reliance
アウトソーシング サポート



ISRビル (統括本部)

〒650-0026
神戸市中央区古湊通1丁目2番
(ISRビル)

(業務案内)
TEL 0120-366-761
www.isr-group.co.jp

社会保険労務士
ISR 梨本

働き方改革策定

労働条件・ハラスメント

労働保険事務組合
経営者会議

概算確定・労災特別加入

合同会社
ISR パーソネル

副業推進支援

人材紹介・リーダー育成

ISR e-Sports

シニア躍動・企業健康経営

株式会社
アイ・エス・アール

データセンター ISR

レセプト管理・情報デザイン

ISRサテライトオフィス

リモートワーク・ウェブ会議

信頼・向上 そして社会貢献

男女共同参画社会づくり協定グループ (兵庫県)

病院年報・周年記念誌

承ります！

会報、大学要項など
70年以上の実績があります。



今ご覧いただいている会報誌も弊社で作成いたしました。

患者様向け小冊子

も承っています！

例えば、診察・入院・手術などの手引書を、
幅広い年代や、日本語が不慣れな方向けに

- ・ 翻訳
- ・ イラスト作成
- ・ ストーリー仕立てのまんが化

動画にも
できます

すべてまるっと、お任せください！

印刷以外も

ご依頼ください！



ホームページ



動画



デジタルサイネージ



看板



資料のデジタル化
(冊子・図面など)

情報をデザインする会社



株式会社 七旺社

URL: <https://www.shichiou.co.jp>

TEL: 078-575-5212

FAX: 078-577-8366

e-mail: info@shichiou.co.jp

〒653-0012 神戸市長田区二番町4丁目27番地



担当: 佐藤 まで

医療・福祉のスマート経営に、
アプリケーションは自由自在。

多様な業務をコーディネートし、お客様に合ったサービスをお届けします。
業務内容の組み合わせも、お気軽にご相談ください。



医療・福祉事業経営のトータルアウトソーシング・ソリューション ワタキューグループの【包括委託サービス】 (セイモアシステム)

包括的に一元的に医療経営・福祉事業経営をサポートする【セイモアシステム】は、ワタキューグループ各社の協力体制で実現しています。

- ワタキューセイモア(株)／リネンサプライ・販売・総合サポート
- (株)フロンティア／調剤薬局事業・福祉用具レンタル・販売事業
- 日清医療食品(株)／給食受託事業・在宅配食サービス事業
- (株)メディカル・プラネット／人材紹介・派遣・研修事業
- 綿久リネン(株)／ホテル・レストラン向けリネンサプライ
- 古久根建設(株)／総合建設業



健康と快適の明日を考える

ワタキュー セイモア株式会社

www.watakyu.co.jp

近畿支店／〒610-0396 京都府綴喜郡井手町多賀茶臼塚12-2 TEL 0774-82-5101

神戸営業所／〒651-1301 兵庫県神戸市北区藤原台北町7-4-1 藤田建設ビル2F TEL 078-982-2940

業 務 案 内

兵庫県病院協同組合 (設立昭和 37 年)

幹 旋 及 び 取 扱 い	基 準 寝 具 及 び 白 衣 ・ 患 者 衣 の 賃 貸	○ ワタキューセイモア(株)
	牛 乳	○ (株)共進舎牧農園
	ねずみ・衛生害虫防除	○ アベックス(株)
	自動販売機による飲料	○ (株)チェリオ Co.、ダイナミックベンディングネットワーク(株)、 (株)アベックス西日本
	保 險 代 理 店	○ 損害保険ジャパン代理店 (組合募集代理店…(株)インシュアランスサービス) 兵庫県民間病院協会の会員病院、職員を対象とした自動車保険・ 火災保険等の取扱い ○ アフラック生命保険株式会社 (組合募集代理店…(株)エイフ) 組合員病院、職員を対象とした集団扱い商品 (がん保険) の取扱い
	自 動 車 リ ー ス	○ (株)イチネン
	院 内 シ ス テ ム 導 入 ・ 電 気 工 事 等	○ (株)ヒューマンスピリッツ
	家庭常備薬、サプリメント (対象:組合員病院の全職員)	○ (株)諒和 組合員病院の職員を対象とした福利厚生及びその家族の疾病予防、 健康増進の一助として、年 2 回程度幹旋実施
	紳士服、レディース用品 (対象:組合員病院の全職員)	○ (株)青山商事と提携 「洋服の青山」で買い物時、「AOYAMA タイアップカード」(入会無料) の提示により、通年、10%の割引 (割引セールの場合は割引後の価格 から) が受けられる。(福利厚生の一助として)
	看護師グッズ通信販売 (対象:特別法人入会が条件) ※ 病 院 ご と の 発 注	○ (株)ナースステージと提携 (京都府病院協同組合との協働事業) (株)ナースステージの特別法人会員にご入会いただくと、通信販売 「アンファミエ」商品をご購入金額にかかわらず 10%割引
	引 越 (対象:組合員病院及び組合 員病院の全職員)	○ (株)サカイ引越センターと提携 「特別割引専用ダイヤル」(TEL0120-56-1141) で申込むと、特別優待 割引(引越基本料金の 20%以上割引。但し 3 月 15 日～4 月 15 日は除く) が受けられる。(福利厚生の一助として)

※上記以外にも、病院運営に役立つ物品・機器の紹介や幹旋をおこなっています。

ホームページからお気軽にお問合せください。公式サイト URL: <https://hgbyokyoso.com/>



組合員数 107 個人・法人
 理事長 西 昂 (医療法人康雄会理事長)
 専務理事 鄭 正 秀 (医療法人社団博愛恵秀会理事長)
 常務理事 森 村 安 史 (医療法人樹光会理事長)

- ・協同組合には10万円の出資金のみ拠出いただければご加入できます(出資金は脱退時に返却)。ご加入後は年会費など頂戴することはありません。
- ・取扱い業務並びに組合加入その他詳細は協同組合事務局へお問い合わせください。

協同組合事務局・TEL (078) 230 - 2525
FAX (078) 230 - 2526



(一社)兵庫県民間病院協会会報

令和8年7月25日発行・通巻665号

発行人 一般社団法人 兵庫県民間病院協会会長 橋本 創

〒651-0086 神戸市中央区磯上通6丁目1番11号 兵庫県医師会館7F

TEL (078) 230-1181 Eメール info@hgminkanhp.or.jp

URL <https://www.hgminkanhp.com>

編集者 譜久山剛、榎村忠浩、園田 香、原 正也、山田泰嗣、河内雅孝

印刷 (株)七旺社 神戸市長田区二番町4丁目27番地・TEL (078) 575-5212(代)